

平成 28 年度～平成 30 年度 幼児教育の推進体制構築事業

事業実施報告書

しっかりつなぐ育ちのバトン

～ 接続期の子どもの育ちについて考える ～

名張市

名張市教育委員会

平成 31 年 3 月

目次

平成 28 年度～平成 30 年度 幼児教育の推進体制構築事業 成果報告	1
しっかりつなぐ育ちのバトンカリキュラム	17
しっかりつなぐ育ちのバトンカリキュラム実践事例	35
重点内容に係る実践より見られた「学びの芽」	45
引用・参考文献	51

1. テーマ

- (ア) 幼稚園、保育所（園）、認定こども園等を巡回して指導・助言を行う「幼児教育アドバイザー」の育成・配置に関する調査研究
- (ウ) その他、幼児教育の質の向上を図るために必要な推進体制に関する調査研究

2. 事業実施理由及び目的等

(1) 事業実施の背景・実施理由

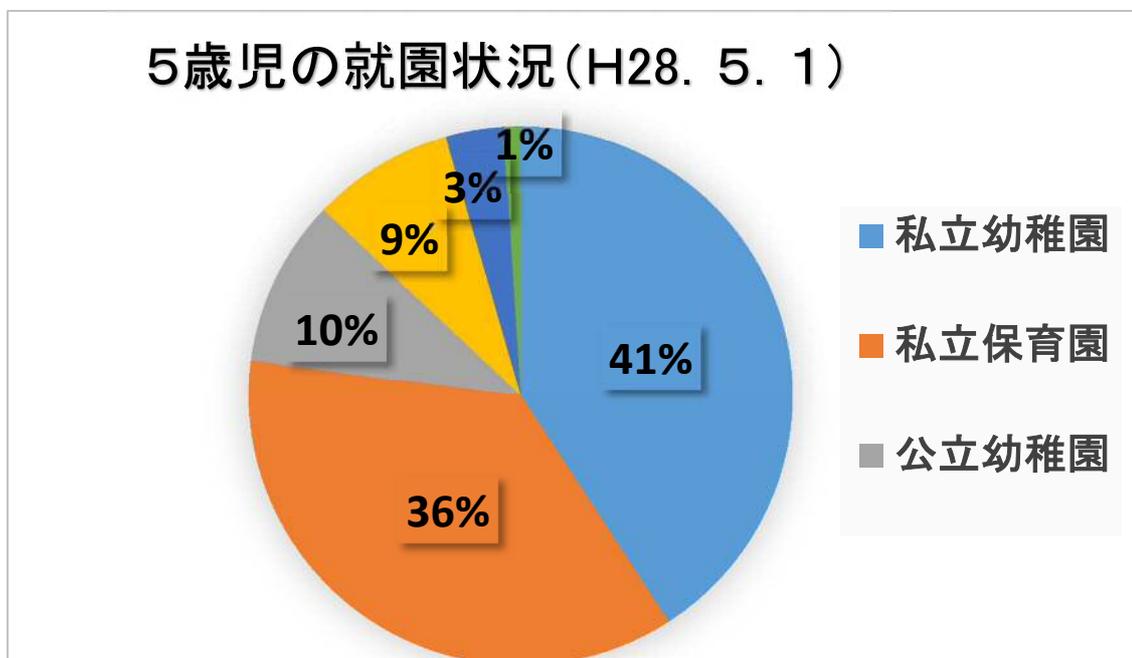
本市では、これまで幼稚園・保育所（園）・認定こども園と小学校の連携を図り、円滑な接続を行うために小学校教員と幼児教育関係者が一同に会し相互の指導状況を交流することによって就学前教育と小学校教育とをつなぐための相互理解を深めるとともに、個々の教職員の指導力向上を図ってきた。

しかし、家庭の変容、保護者の共働き、待機児童の増加などから、本市の特徴的なこととして、一つの小学校に複数の幼稚園・保育所（園）・認定こども園から就学する子どもが数多く見られるようになり、こうした状況と相まって、いわゆる小1プロブレムの状況が多く見られるようになってきた。幼稚園・保育所（園）・認定こども園では、一定集団としてのまとまりや、先を見据えた取組がなされているが、小学校入学時に集団として再構成される際、なかなかスムーズに集団としてのスタートが切れていかない状況があり、ここ数年、授業中の離席・私語等で授業が成立しないという状況や集団不適応を起こす児童も現れるなどの状況が見られるようになってきたのである。

こうした課題を解決すべく、本事業を受託し「幼児教育の質の向上を図るために必要な推進体制に関する調査研究を行い、幼児期と児童期のスムーズな接続を実現させる」ことを目的に、「幼児教育アドバイザー」配置及び接続期のカリキュラム作成に関する調査研究を実施した。小1プロブレムの状況がみられることを踏まえ、幼児教育アドバイザーが幼稚園・保育所（園）・認定こども園及び小学校を巡回して、相互の職員への指導を行うことと、保・幼・小のなめらかな接続をめざして指導内容・指導方法を明確化するために「接続期カリキュラム」を作成するとともに「幼児教育研修会」や「園内リーダー研修」の実施等、研修の機会の充実を図る取組について検討することとした。

1) 就学前保育・教育の現状（平成28年度）

市内には、公立2幼稚園と私立4幼稚園、公立4保育所と私立9保育園、1認定こども園と地域型保育事業として6施設がある。5歳児の児童数は、678名（平成28年5月現在）中、私立幼稚園285名（41%）、私立保育園223名（36%）、公立幼稚園70名（10%）、公立保育所59名（9%）、認定こども園23名（3%）、地域型保育施設7名（1%）となっている。また、一つの小学校に多数の幼稚園・保育所等から就学する状況があり、市内14小学校の1年生は、26学級（平成28年5月現在）あるが、多いところで12施設より、少ないところでも5施設より、平均すると、1学級あたり7.4施設より就学していることになる。このような状況は、就学に対して子どもたちに不安を与える一つの要因ともなっていると考えられる。

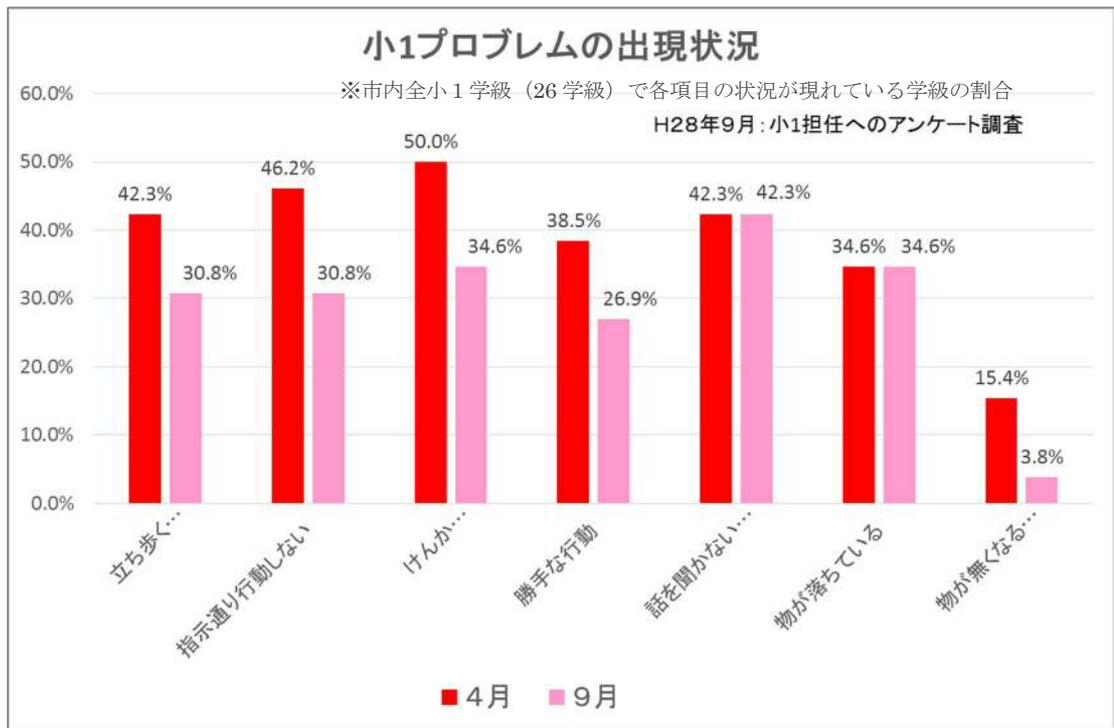


2) 小1プロブレムの現状

「小1プロブレム」とは、1年生の学級において、入学後の落ち着かない状態がいつまでも解消されず、教師の話を聞かない、指示通りに行動しない、勝手に授業中に教室の中を立ち歩いたり教室から出て行ったりするなど、授業規律が成立しない状態へと拡大し、こうした状態が数ヵ月にわたって継続する状態をいう。これらの状況について、小学校1年生の学級担任にアンケート調査を実施した結果は、下のグラフのとおりである。

アンケート項目は7項目。

- ① 授業中、勝手に教室の中を立ち歩いたり、教室の外に出て行ったりする
- ② 先生の指示通りに行動しない
- ③ 児童同士のけんかやトラブルが日常的に起きている
- ④ 先生が教育的な配慮を要する児童の対応をしている間に、他の児童が勝手なことをしている
- ⑤ 授業中に担任の話を聞かない、または、私語がやまず、ざわざわしている
- ⑥ 教室内に物が落ちていたりして、教室が汚れている
- ⑦ 教室内で物が隠されたり、無くなったりすることがある



これらの状況が見られる児童の人数について4月当初と9月について状況を問うたところ、人数的にはのべ96名から55名に約半分に減少しているが、依然として①～④については約30%の学級で存在しており、⑤⑥については、4月と同じ状況が続いていることがわかる。

3) 幼稚園・保育所（園）・認定こども園と小学校の連携の現状

a. 「移行シート」による連携

5歳児健診を実施している本市では、その結果を受けて、発達に課題のある子どもを、つなぐシステムづくりが構築されてきている。子ども発達支援センター職員が、健診結果についての説明が必要であると認められる場合、健診児の保護者に対して、面談の上、説明を行い、子育てに関する助言等必要な支援を行っている。さらに、就学後も引き続き支援が必要と判断されるものについては、就学に当たり、在園する幼稚園・保育所・認定こども園の協力及び保護者の同意を得て、支援の移行シートを作成し、必要に応じ、判定結果その他の資料を添えて、学校教育室と協議した上、当該健診児が就学する小学校に引き継いでいる。

b. 保育士・幼稚園教諭と小学校教諭の訪問による連携

移行シートによる該当児童の支援等に係る連携の他に、入学までに就学元の幼稚園・保育所（園）・認定こども園を小学校教諭が訪問し、児童の観察と支援についての情報共有を行っている。また、入学後は、就学元の保育士・幼稚園教諭等が学校を訪れ、授業参観の機会をもっている学校もある。しかし、就学元が多数にわたることも理由で、この取組を行う学校は限られている。

c. 学校行事による連携

学校行事による連携については、すべての小学校で実施されている。運動会の「来入児旗取り競走」や、「1日体験入学」等、来入児が学校を訪れて、在校生とともに交流する機会を設け、入学への期待を膨らませ、不安を少なくする取組を実施している。次年度入学をしたときに6年生となり1年生のお世話をすることになる現5年生が、来入児と手をつないで校庭を回ったり、いっしょにふれあう遊びをする中で交流を深めるよい機会となっている。

このように、入学までには様々な連携をとりながら、幼児期と児童期のスムーズな接続をめざしてきているが、中には、「保育所ではちゃんとしていたのに、学校ではなじめず、そのギャップで保護者が学校に不信感を抱く」等のケースもあり、小学校

1年生へ入学することで個々の新たな課題が見えてくることや、すべての児童の様子
の引き継ぎがうまくいっていないこともある。

また、小学校担任からは、「保育園でも1～3月に椅子座って45分間じっとして
いるという体験をしておいてほしい」など、就学前教育・保育の特性やめざす姿につ
いての理解が不十分な回答結果もあり、就学前教育・保育の「見方・考え方」の十分
な理解の上に立った連携が望まれる。

(2) 調査研究目的

幼児教育の質の向上を図るために必要な推進体制に関する調査研究を行い、幼児
期と児童期のスムーズな接続を実現させる。

(3) 調査研究内容

① 幼児教育アドバイザーの巡回訪問による指導・助言

幼児教育アドバイザーによる幼稚園・保育所（園）・認定こども園及び小学校の巡回
により、市内の接続期の児童の状況把握を行い、児童の観察、所属長・担任への聞き
取りをする中で有効な指導内容・指導方法・手立てを探る。

② 「しっかりつなぐ育ちのバトンカリキュラム」の実施と検証

就学前から中学校までの10年間を見据えた「接続期のカリキュラム」を作成すると
ともに、有効な手立て、指導方法についての実践・検証を行う。

③ 研修機会の充実

幼・保・小接続のための研修会、園内リーダー研修会等、園内体制整備や教員の支
援・指導力向上のための有効な研修を実施する。

3. 事業実施計画及び実施体制

(1) 事業実施計画

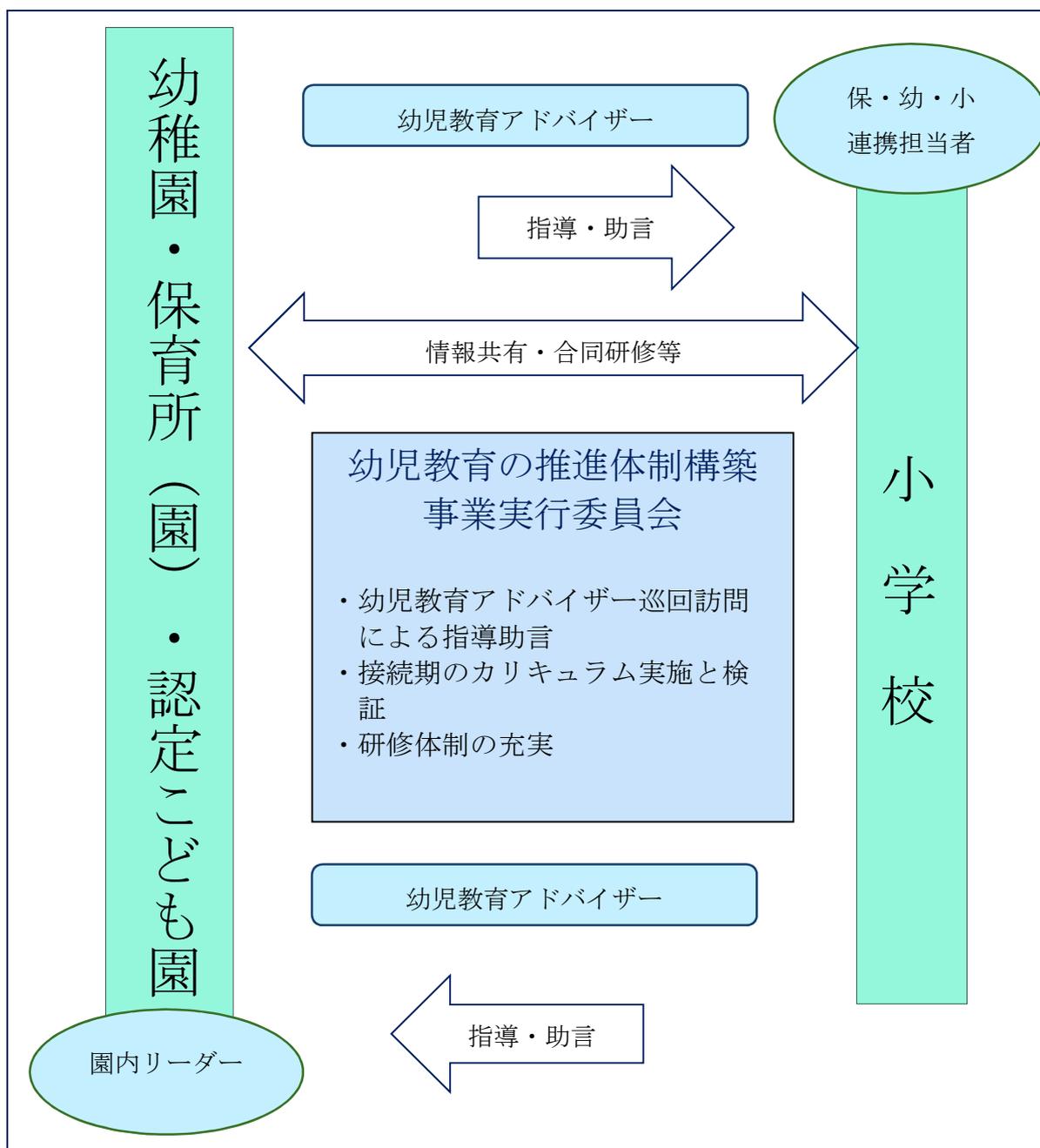
3年間の調査研究計画	
1年目	<p>幼児教育アドバイザー2名を設定し、保育幼稚園室及び学校教育室に配置する。公立幼稚園2園には、園内リーダーを位置付ける。幼児教育アドバイザーは、就学先小学校を訪問し、1～2年生の授業の状況を参観し、担任教師に幼・小のスムーズな接続に向けての指導・助言を行う。また、市内の幼稚園・保育所（園）・認定こども園を巡回し、教育内容や指導方法、教育環境の改善等について指導・助言を行う。</p> <p>なお、配置する幼児教育アドバイザー1名は、小学校管理職経験者をもって充て、もう1名については幼稚園管理職経験者を充てる。この2名を中心にして、小学校低学年の課題及び幼児教育の課題について、共有を図りながら名張版「スタートカリキュラム」に盛り込む内容の検討を行っていく。</p>
2年目	<p>1年目の取組をさらに発展させ、幼児教育アドバイザーが市内すべての幼稚園・保育所（園）・認定こども園及び小学校を巡回して、相互の職員への指導・助言を行う。また、公立幼稚園・保育所のそれぞれに園内リーダーを位置付け、「しっかりつなぐ育ちのバトンカリキュラム」（試行版）の実施にむけて研修の場を持つ。幼児教育アドバイザーは、引き続き2名の体制とする。</p> <p>「しっかりつなぐ育ちのバトンカリキュラム」（試行版）については、モデル幼稚園・保育所にて試行実施をしながら、プロジェクト会議にて検討し、見直しを図る。</p>
3年目	<p>2年目の取組をさらに発展させ、幼児教育アドバイザー4名の体制で、就学先小学校の授業状況を参観するとともに幼稚園・保育所（園）・認定こども園を巡回し、園内リーダーとの連携により、教育内容や指導方法、環境の改善等について指導助言を行う。園内リーダーの育成のための研修を実施するとともに、配置する幼児教育アドバイザー（小学校管理職経験者2名、幼稚園・保育所管理職経験者2名）4名を中心にして、幼稚園・保育所（園）・認定こども園と小学校のスムーズな接続を目ざす。</p> <p>「しっかりつなぐ育ちのバトンカリキュラム（試行版）」については、公立各園にて実施をしながら、プロジェクト会議にて検討し、確定版とする。また、本事業終了後も市内各園に接続期カリキュラムに基づく保育実践について指導・助言を行うアドバイザー的役割の者が巡回する体制の構築をめざす。</p>

(2) 事業実行委員会体制

実行委員氏名	所属機関所属・職名	具体的な役割分担	従事期間
高嶋 正広	名張市教育委員会 教育次長	実行委員長	H28.4.1～ H31.3.31
田口 鉄久	鈴鹿大学 教授	専門的知見からの助言	H28.4.1～ H31.3.31
杉本 一徳	福祉子ども部次長	実行副委員長	H28.4.1～ H29.3.31
竹延 香	名張幼稚園長	園内研究体制整備	H28.4.1～ H31.3.31
中出 かおり	薦原保育所長	所内研究体制整備	H28.4.1～ H31.3.31
山岡 尚子	保育幼稚園室長	調査研究体制整備	H28.4.1～ H31.3.31
岡崎 みどり	名張市子ども発達支援 センター長	調査研究体制整備	H28.4.1～ H31.3.31
内匠 勝也	教育総務室長	調査研究体制整備	H28.4.1～ H31.3.31
中森 早苗	学校教育室長	調査研究体制整備	H28.4.1～ H31.3.31
市橋 秀介	名張市教育センター長	調査研究体制整備	H28.4.1～ H29.3.31
上谷 典秀	名張市教育センター長	調査研究体制整備	H29.4.1～ H31.3.31
稲森 理伸	比奈知小学校長	校内研究体制整備	H28.4.1～ H29.3.31
廣岡 貞之	薦原小学校長	校内研究体制整備	H29.4.1～ H31.3.31
山本 卓生	桔梗が丘東小学校教諭	校内研究体制整備	H28.4.1～ H29.3.31
谷 知泰	桔梗が丘小学校教諭	校内体制整備	H29.4.1～ H30.3.31
大島 佳那	つつじが丘小学校教諭	校内体制整備	H30.4.1～ H31.3.31
荻田 貴子	保育幼稚園室 保育指導担当室長	調査研究体制整備	H28.4.1～ H31.3.31
森永 美紀子	指導主事	調査研究体制整備	H28.4.1～ H29.3.31
福島 由夏	指導主事	調査研究体制整備	H28.4.1～ H29.3.31
西岡 俊充	指導主事	調査研究体制整備	H29.4.1～ H31.3.31

松田 淑子	指導主事	調査研究体制整備	H29.4.1～ H31.3.31
北畑 維久子	幼児教育アドバイザー	学校・園への指導・助言	H28.4.1～ H31.3.31
小島 淳子	幼児教育アドバイザー	学校・園への指導・助言	H28.4.1～ H31.3.31
福本 康代	幼児教育アドバイザー	学校・園への指導・助言	H30.4.1～ H31.3.31
山村 千鶴	幼児教育アドバイザー	学校・園への指導・助言	H30.4.1～ H31.3.31

(3) 組織及び体制図



4. 実施内容

- (1) 5歳児担任、小1担任へのアンケートによる接続期の子ども の状況把握
 - 事業開始にあたっての状況把握と取組の検証を目的として、平成28年度と30年度に5歳児担任、小1担任を対象としたアンケート調査を行った。
 - 就学前から小学校へのスムーズな接続に関して、保育・教育関係者の意識調査及び、就学前段階と小学1年生の子ども の状況調査を行った。
 - 調査結果を、幼児教育アドバイザー巡回や接続期カリキュラムの作成、研修会の計画に活用した。
 - 事業1年目と3年目にアンケートを実施し、取組の効果について検証した。

- (2) 幼児教育アドバイザーの巡回による接続期の子ども の状況把握
 - 接続期の子ども の状況把握と接続期の保育・教育に関する指導・助言を行うことを目的として、市内公立私立全ての5歳児が在園している幼稚園・保育所(園)・認定こども園及び市内全小学校を対象に、幼児教育アドバイザーによる巡回を行った。
 - 幼稚園・保育所(園)・認定こども園の巡回では、所属長からの聞き取り及び保育観察により、就学前段階の子ども の状況を把握した。また、「幼児期の終わりまでに育てほしい10の姿」を意識した保育の在り方や「しっかりつなぐ育ちのバトンカリキュラム」に基づいた保育の在り方について、助言を行った。
 - 小学校巡回では、管理職教員や1年担任からの聞き取り及び授業観察により、小学1年生の子ども の状況を把握した。また、幼稚園・保育所(園)・認定こども園からのスムーズな接続をめざした教育の在り方について、具体的な事例を紹介するなどして助言を行った。
 - 状況把握により判明した課題を、接続期カリキュラムの作成や次の巡回での指導・助言、研修会の計画に活用した。
 - 巡回の中で、幼稚園・保育所(園)・認定こども園と小学校との交流について、双方において具体的な事例を紹介するなどして、取組を推進した。

- (3) 「しっかりつなぐ育ちのバトンカリキュラム」の作成
 - 就学前段階から小学校へなめらかな接続をめざし、指導内容・指導方法を明確化すること目的として、市としての接続期のカリキュラム「しっかりつなぐ育ちのバトンカリキュラム(試行版)」を作成した。
 - 幼稚園教育要領の5領域と「幼児期の終わりまでに育てたい10の姿」をふまえて、6つの重点カテゴリとそれぞれのカテゴリに10の重点項目を設定し、幼児期の保育・教育から学校教育への接続を考えていけるようにした。

(4) 接続カリキュラムに基づく実践の推進

- 「しっかりつなぐ育ちのバトンカリキュラム（試行版）」の検証と他園への取組の推進啓発を目的として、モデル園3園を指定し実践検証を行った。
- カリキュラムに基づく保育実践からエピソードを抽出し、幼児の「学びの芽」の育ちを考察するとともに、カリキュラム内容の見直しを図った。
- モデル園での実践をまとめた「しっかりつなぐ育ちのバトンカリキュラム実践事例集」を作成し、市内の全幼稚園・保育所（園）・認定こども園職員及び小学校教員に配付し、カリキュラムに基づく実践を推進した。
- 私立を含め市内全園でより接続期の保育について検討できるように、平成30年度は、「ばりっ子ピカピカ小1学級プロジェクト」との連携により、カリキュラムに基づく保育実践を巡回の中で出前保育的に行うようにし、実践検討を行うようにした。

(5) 公開保育・公開授業の実施

- 保育・教育の職員が互いに保育・教育を参観し、その内容や目的を共通理解できるよう、公開保育・公開授業を年度内に1回ずつ実施した。

(6) 実践報告会・実践交流会の開催

- 市内への取組の推進啓発を目的として、市内全幼稚園・保育所（園）・認定こども園職員及び小学校教職員の参加による、名張市幼児教育の推進体制構築事業実践報告会を各年度末に行った。
- 事業最終年度には、幼稚園・保育所（園）・認定こども園職員及び小学校教員で、実践交流会を行い、相互理解と接続期の保育・教育の充実を図った。

(7) 研修会の開催

<平成28年度>

実施日	研修会名	会場	参加人数	対象者
8月24日	研修講座「幼児教育」 講師：三重大学 富田 昌平 准教授	名張市教育センター	40	保育所、幼稚園、認定こども園、小中学校、行政関係職員
10月26日	公立幼稚園合同研修会	名張幼稚園	20	名張幼稚園・桔梗南幼稚園教職員
3月3日	幼児教育の推進体制構築事業研修会	名張市教育センター	40	保育所、幼稚園、認定こども園、小中学校、行政関係職員

<平成 29 年度>

実施日	研修会名	会場	参加人数	対象者
5月19日	幼稚園・保育所（園）・認定こども園から小学校へのスムーズな接続に関する研修会	名張市教育センター	17	各小学校教員（1年生担任を必ず含む）、行政関係職員
7月2日	幼稚園・保育所（園）・認定こども園から小学校へのスムーズな接続に関する公開授業	桔梗が丘東小学校	27	保育所、幼稚園、認定こども園、小学校、行政関係職員
8月8日	研修講座「幼児教育」 講師：鳴門教育大学 木下光二教授	名張市教育センター	50	保育所、幼稚園、認定こども園、小中学校、行政関係職員
12月5日	幼稚園・保育所（園）・認定こども園から小学校へのスムーズな接続に関する公開保育	名張幼稚園	20	保育所、幼稚園、認定こども園、小中学校、行政関係職員
3月6日	平成29年度幼児教育の推進体制構築事業実践報告会（保幼小合同研修）	名張市教育センター	47	保育所、幼稚園、認定こども園、小中学校、行政関係職員

<平成 30 年度>

実施日	研修会名	会場	参加人数	対象者
7月2日	幼稚園・保育所（園）・認定こども園から小学校へのスムーズな接続に関する公開授業	蔵持小学校	24	保育所、幼稚園、認定こども園、小学校、行政関係職員
7月25日	園内リーダー研修会	名張市教育センター	6	公立各園の園内リーダー
8月27日	研修講座「幼児教育」 講師：京都府立大学 服部恵子教授	名張市教育センター	48	保育所、幼稚園、認定こども園、小中学校、行政関係職員
11月13日	公開保育研究会	名張幼稚園	76	保育所、幼稚園、認定こども園、小中学校、行政関係職員
12月21日	園内リーダー研修会	名張市教育センター	6	公立各園の園内リーダー
2月25日	平成30年度幼児教育の推進体制構築事業実践報告会（保幼小合同研修）	名張市教育センター	65	保育所、幼稚園、認定こども園、小中学校、行政関係職員

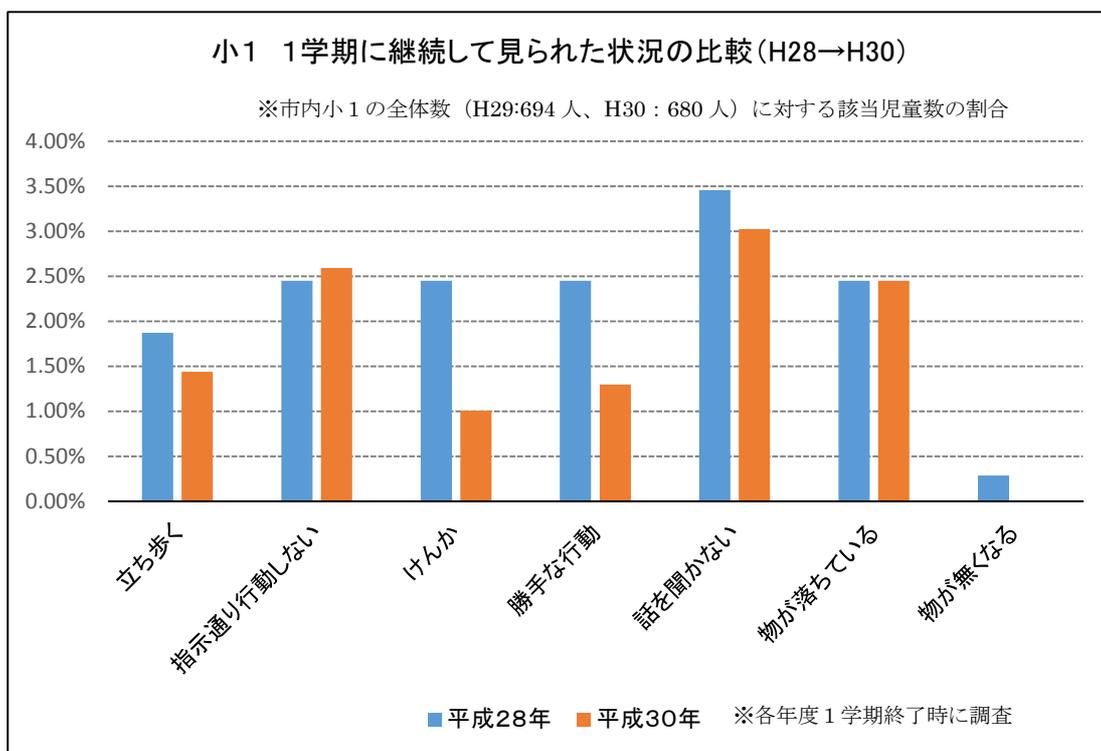
5. 成果及び課題

(1) 成果

①接続期の子どもたちの状況の変化

平成28年度と平成30年度の小1担任へのアンケートによると、1学期に継続して見られた児童の状況として、小1プロブレムにつながる様子が2年間で減少していることが分かった。特に「授業中の立ち歩き」「けんか」「勝手な行動をする」といった項目での減少の幅が大きいことから、入学当初の児童の不安感が以前よりも解消されているのではないかと推察される。就学前から小学校教育を見通した保育がなされていることや、小学校側としても、就学前段階で育まれている子どもたちの力をふまえて指導にあたっていることの成果として、子どもたちが入学期から自分の行動にある程度の見通しをもつことができ、安心して小学校生活を送ることができるようになってきているものと考えられる。

<アンケート結果>



②接続期の保育・教育者の意識の変容

幼児教育アドバイザーの園巡回による所属長との面談や保育観察を繰り返すにつれ、各園では、教員・保育士・保育教諭が接続期をより意識して保育実践にあたるようになっていった。平成30年度は、元小学校教員が各園を巡回して接続カリキュラムに基づく保育プログラムを実施する「ぼりっ子ピカピカ小1学級プロジェクト」と連携し、その保育実践の助言者として園を訪問することにより、就学を見据えた保育の在り方について、より深まった討議を行うことができた。私立幼稚園・保育園・認

定こども園の巡回では、園長からの聞き取りや、教育計画等の資料提供により、具体的な各園の取組状況を把握でき、各園で独自に行われている有意義な取組等を公立・私立の他園へ情報提供することができた。特に、園と小学校との交流については、既に取り組まれている事例をアドバイザー巡回で紹介し、取組の推進を図っていったところ、平成30年度には、多くの園で小学生との交流や学校見学等が計画されるようになった。

幼児教育アドバイザーの小学校巡回では、接続カリキュラムの活用や接続期を意識した指導方法の改善について助言を行ってきたところ、教室環境の整備や一斉指導の中での個別の配慮等、就学前段階の保育内容や子どもの育ちを意識した取組が増えてきた。

③「しっかりつなぐ育ちのバトンカリキュラム」の作成

平成28年度に作成した「しっかりつなぐ育ちのバトンカリキュラム（試行版）」に基づき、平成29年度には公立3園をモデル園として、実践検証を行うとともに、実践事例集を作成することができた。平成30年度は、公立全幼稚園・保育所で実践・検証を重ねカリキュラムの完成版を作成することができた。

接続カリキュラム及び実践事例集は、市内の全ての保育・幼児教育関係者と教育関係者に配布し、カリキュラムに基づく実践を広め、接続期の保育・教育の充実を図ることができた。

④「しっかりつなぐ育ちのバトンカリキュラム」の実践の広がりや保育の充実

幼児教育アドバイザー巡回や研修会等で、接続カリキュラムに基づく実践の意義を伝え、実践を広めることができた。平成29年度モデル園を始め、カリキュラム実践検証に取り組んだ園では、実践・考察を通して、子どもの生活・遊びの中で、さまざまな「学びに向かう力」の育ちがあることを再認識することができ、日々の保育実践の中で、保育者がそれを「学びの芽」として意識することより、指導方法の改善につながっていくことができた。

平成29年度末に作成・配付した実践事例集は、保育者が具体的な取組のイメージを共有するのに効果的であったようで、事業3年目にはその実践がさらに広がり、私立を含め市内の5歳児が在園している全ての園からの接続カリキュラムに関連する事例提供を得て、実践交流会を実施することができた。

⑤研修会等による保育・幼児教育関係者と学校教育関係者の相互理解の深まり

幼稚園と小学校の双方向からの公開により、参加者がその取組や子どもの様子を互いに知ることができた。保育・幼児教育関係者は、小学校での学びに向かう力として幼児期の子どもの育みたい力を意識し、普段の保育を考えていこうとすることができた。学校教育関係者は、幼稚園・保育所（園）・認定こども園の保育の実態を踏まえ

た教育のあり方を考えることができた。幼稚園での指導者の細やかな指導や環境構成から、小学校での一斉指導形態の授業を行う上で参考となる気づきも多く得られた。

また、実践報告会・実践交流会には、市内全ての5歳児が在園している幼稚園・保育所（園）・認定こども園及び市内全小学校からの参加を得ることができた。保育・幼児教育関係者には、他園の好事例に学ぼうとする姿が多く見られ、学校教育関係者にとっては、就学前段階の子どもたちの育ちを理解し、なめらかな接続をめざした学校教育の在り方を考えることができた。

⑥研修の機会の充実

幼児教育研修会に小学校教員が参加する機会をもつことが課題であったが、小学校教員のみ対象の研修会や公開保育研修会、幼児教育研修講座、事業実践報告会・交流会を企画したところ、各小学校からの参加はもちろん中学校教員の自主的な参加も得ることができた。

また、公立幼稚園・保育所の園内リーダーの研修会を平成30年度には2回開催し、各園での園内リーダーを中心とした幼児教育・保育推進体制の充実につながった。

⑦幼児教育アドバイザーの活用

事業1年目の幼児教育アドバイザー巡回は、巡回の目的等の説明と園から情報を聞き取ることが主な内容となり、巡回数を増やすことも難しい状況であったが、保育を観察して助言を行ったり、各園の取組の好事例を他園に紹介したりすることを繰り返す中で、しだいに園の方からの事例提供や保育内容に関する相談が増えていった。その中で、接続期の保育の在り方についての討議が深まっていった。

幼児教育と学校教育にそれぞれ専門性をもつアドバイザーが、小学校とのなめらかな接続をめざした保育の充実を目的として、「各園の好事例を見出し、他園に広げる」ことを重視して巡回するようにしたことや、「ばりっ子ピカピカ小1学級プロジェクト」と連携し、園での検討会も行いながら接続カリキュラムの実践を広めていったこと等が成果につながったものとする。

⑧教育センターを拠点とした部署間連携

本市では、幼児教育センターは未設置であるが、学校教育室と保育幼稚園室の部署間連携によりその機能を果たしている。教育委員会学校教育室と福祉子ども部保育幼稚園室は市役所本庁にあり、以前より主に担当指導主事と保育指導担当室長が連携して幼児教育・保育指導にあたってきた。平成28年度より、幼児教育推進の拠点を教育センターとし、幼児教育アドバイザーを当センターに配置して、情報交換、カリキュラム作成に係る作業、検討会、研修会等を行っている。

教育センターには、福祉子ども部子ども発達支援センターもあるため、各園での保育をより深く検討することができる。また、教育センターは、保育関係、教育関係職

員の研修の場となっており、そこに幼児教育アドバイザーが配置されていることで、幼児教育アドバイザーを活用した各校園での保育・教育の充実につながっている。

(2) 課題

①幼児教育アドバイザーの配置

- 事業終了後も幼児教育アドバイザーを配置し、園巡回等を行う。

②「しっかりつなぐ育ちのバトンカリキュラム」に基づく実践の推進

- 公立幼稚園・保育所では、カリキュラムに基づく実践を進め、園内リーダーによる事例検討を行う等、推進体制ができたが、さらに市内私立幼稚園・保育園・認定こども園での実践を推進していく。
- 0歳の段階から5歳の終わりまでに育てたい姿を見通した保育システムを考える必要がある。

③研修機会の充実

- 幼児教育研修講座の充実を図り、幼稚園教諭・保育士・保育教諭・小学校教員がともに学ぶ研修会を継続して開催できるようにする。
- 公開保育・公開授業を継続して実施する。実施時期については、学校や園の行事等の状況を考慮し、教員・保育士・保育教諭が参加しやすいようにする。
- 「しっかりつなぐ育ちのバトンカリキュラム」の実践に向けて園内リーダー研修会を継続する。

しっかりつなぐ育ちのバトンカリキュラム

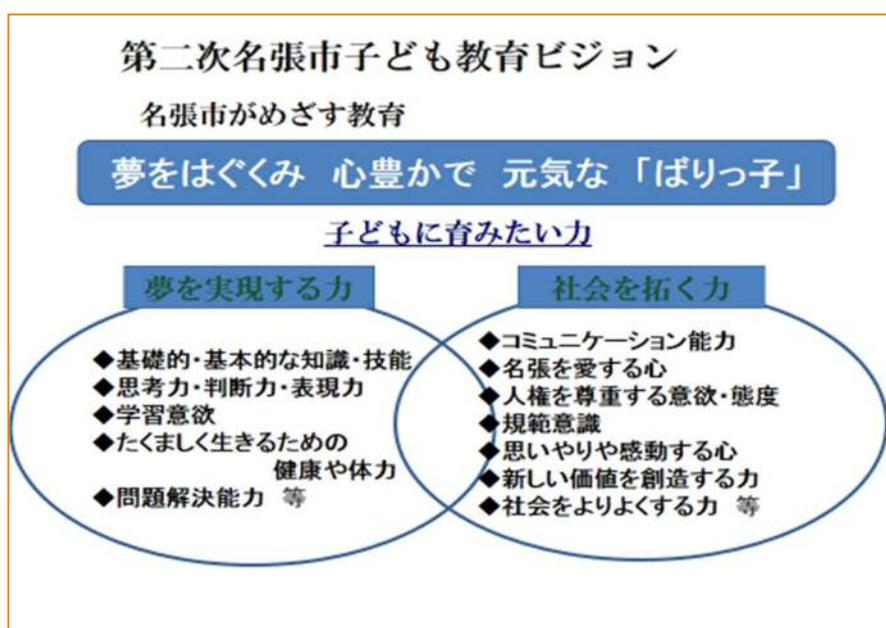
～接続期の子どもの育ちについて考える～

名張市における接続期のカリキュラム

1 接続期のカリキュラムの必要性

本市では、第2次名張市子ども教育ビジョンにおいて、子どもに育みたい力を「夢を実現する力」「社会を拓く力」とし、「しっかりつなぐ育ちのバトン」を基本方針の1つに据え、その施策の中に「就学前教育の充実」を掲げ取組を進めています。幼稚園・保育所（園）・認定こども園と小中学校の連携を強化すること、幼稚園教諭・保育士・保育教諭の資質・能力の向上を図ること、接続期のカリキュラムを編成することが主な取組です。接続期のカリキュラムについては、幼児期の年長から小学校低学年の期間を子どもの発達や指導方法の連続性を踏まえた「接続期」と捉え、カリキュラムを編成するとしています。

幼稚園教育要領に示されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、幼稚園等と小学校の教員が持つ5歳児修了時の姿を共有化することにより、幼児教育と小学校教育との接続の一層の強化を図るべきものです。小学校の各教科等においても、カリキュラムの中で、合科的・関連的な指導や短時間での学習などを含む授業時間や指導の工夫、環境構成等の工夫を行うとともに、子供の生活の流れの中で、幼児期の終わりまでに育った姿が発揮できるような工夫を行いながら、幼児期に育まれた資質・能力を徐々に各教科等の特質に応じた学びにつなげていく必要があります。

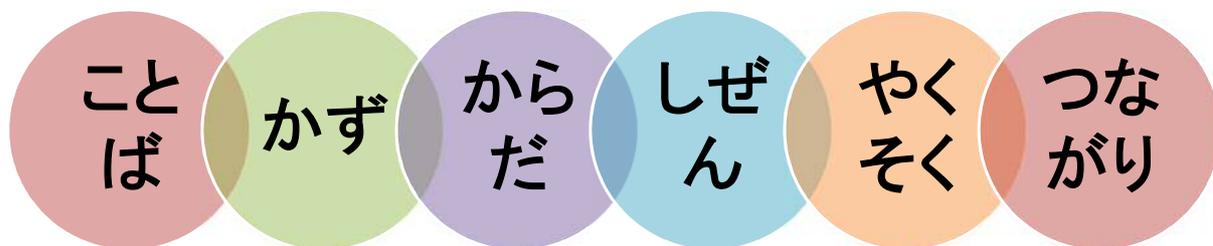


2 接続期のカリキュラムの考え方

本市における接続期のカリキュラムは、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ、名張市のめざす教育の実現に向け、5歳児の4月から小学校1年生の3月までの2年間で、「幼児期における学びの土台の力」＝「学びの芽」を小学校における教科学習に丁寧につなぐ役割を担うものです。

幼児期における「学びの土台の力」＝「学びの芽」は、小学校における教科学習への見通しをもちながら、遊びや生活の中で個々の発達や興味関心に応じながら育んでいくものです。小学校教育の前倒しや早期教育を実施するなかで獲得されるものではありません。幼い子どもは歩く練習をして歩けるようになるのではなく、立って歩く前にしっかりハイハイをし、ハイハイの中で身体の筋力や平衡機能などを身に付けこれらの力が土台となって、つかまり立ち、つたい歩きをへて、一人歩行ができるようになることと同様です。幼児期に育むべき様々な力を幼児教育の特徴である環境を通して行うことで、小学校の学びの土台ができあがります。

接続期のカリキュラムは、これらの力が「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の5領域の中で総合的に育まれることを前提としながら、名張市の子どもに育みたい力にたらし、幼児期における「学びの土台の力」＝「学びの芽」を**6つの重点カテゴリ**として抽出することで編成していきます。6つの重点カテゴリは、〈ことば〉〈かず〉〈からだ〉〈しぜん〉〈やくそく〉〈つながり〉とします。



これらの重点カテゴリを、小学校1年生の教科・領域の学習との連続性を意識し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の先を見通すために、教科・領域につなげていきます。

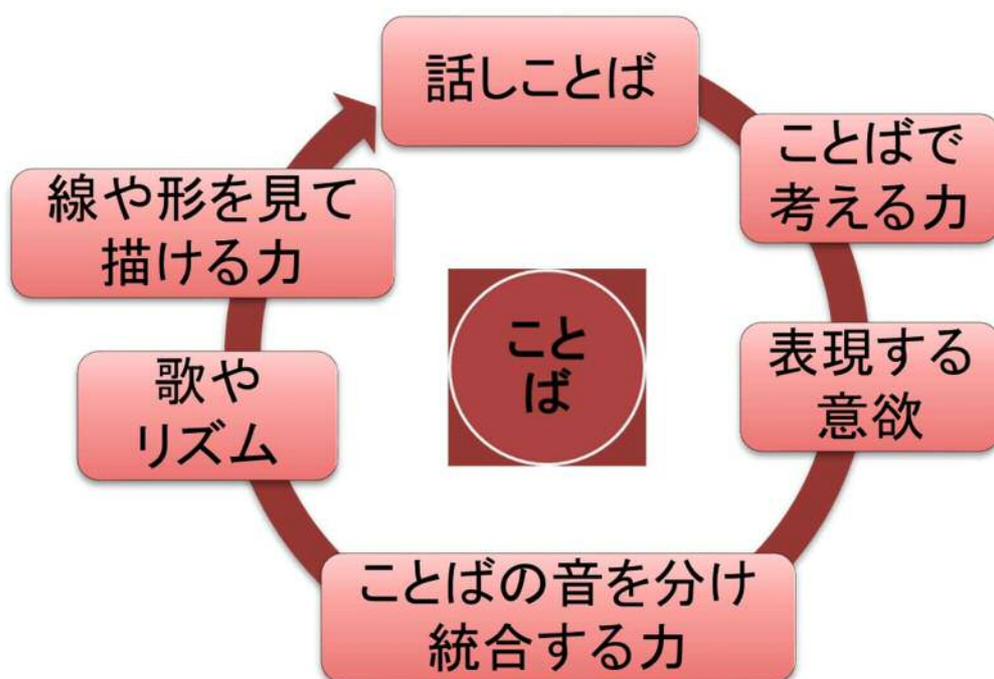
3 接続期のカリキュラムのねらいと重点内容〈5歳児〉

〈ことば〉

ことば

- ◆体験したことをことばや絵、身振りにより表現する
- ◆いろいろな線や形を自由に描く

〈ことば〉の力の前提となる「学びの土台の力」＝「学びの芽」は、話し言葉を十分に使用し、ことばで考える力が育っていることであり、これは、文字の獲得のみならず、主体的な学びの基礎となる重要な力です。ほかには、線や形を見て描ける力：「視覚～運動統合能力」が育っていることや、言葉の音を分けたり統合したりできる力：「音節分解・音韻抽出」の力が育っていることや、感動したことを伝えたいという表現意欲や、思いのままに歌ったりリズム遊びを楽しんだりする表現の土台が育っていることなどが重要です。また、これらの「学びの芽」を育み小学校における教科学習につなげていくために、接続期のカリキュラムの中に重点カテゴリとして〈ことば〉を設けます。〈ことば〉のカテゴリのねらいは、「体験したことを話し言葉や絵、身振りにより豊かに表現する。いろいろな線や形を自由に描くことができる。」としています。





体験したことをことばや絵、身振りにより表現する。
いろいろな線や形を自由に描く。

重点内容



本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読む。
大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞いたり話したりする。
経験したことや想像したことなどをつながりのある文章で書く。



<ことば>のカテゴリの10項目の重点内容は次のとおりです。

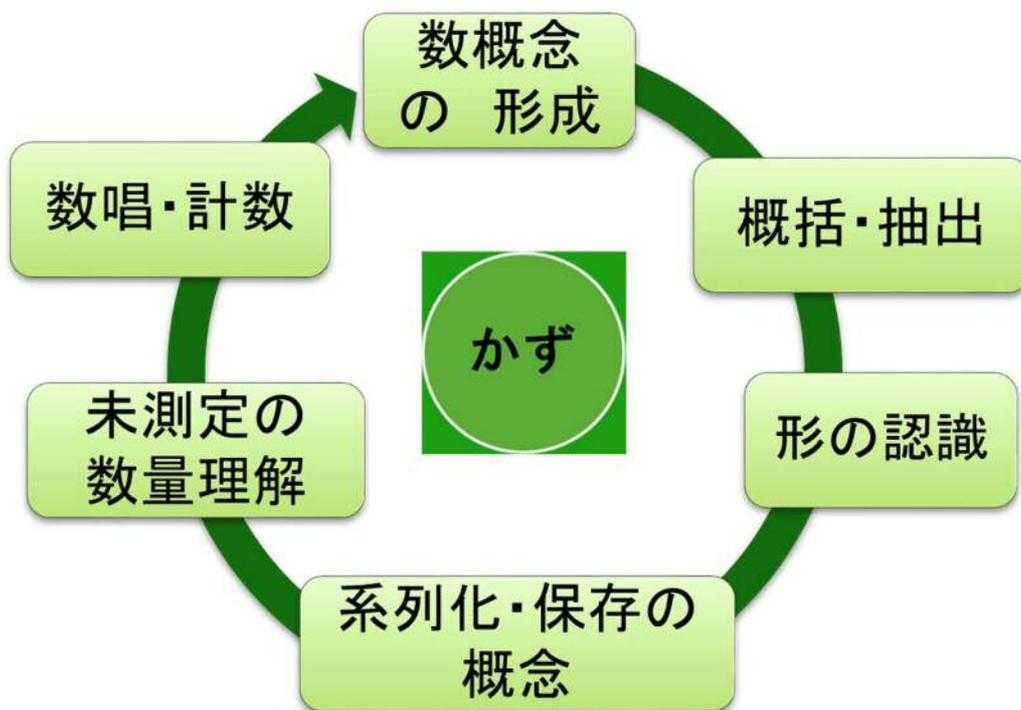
- ①「絵本コーナー」で、絵本や図鑑に触れる。
- ②保育者が絵本の読み聞かせを継続することで、言葉に興味・関心を上げられるようにする。
- ③なぞなぞ、しりとり、早口言葉や音節を意識した言葉遊びを楽しむ。
- ④保育者が子どもの言葉に共感し、豊かな言葉にして返すことで表現する土台を育む。
- ⑤地図や迷路遊びに興味をもち、絵や線を描く遊びを楽しむ。
- ⑥話し合いで決まったことや予定などを保育者が書いておき、ひらがなに触れる機会を増やす。
- ⑦おはしの持ち方から鉛筆の持ち方の基礎を身に付ける。
- ⑧カルタ・すごろく遊びをして、文字や言葉に興味・関心を広げる。
- ⑨歌のなかの言葉に親しんだり、リズム楽器を使ったりする楽しさを味わう。
- ⑩お手紙ごっこをしたり、小さな枠の中に絵や模様を描く遊びをしたりする。

<かず>

かず

- ◆かんたんな数や量や形の感覚を生活や遊びの中で体感する
- ◆体験したことを数や量や形を使って表現する

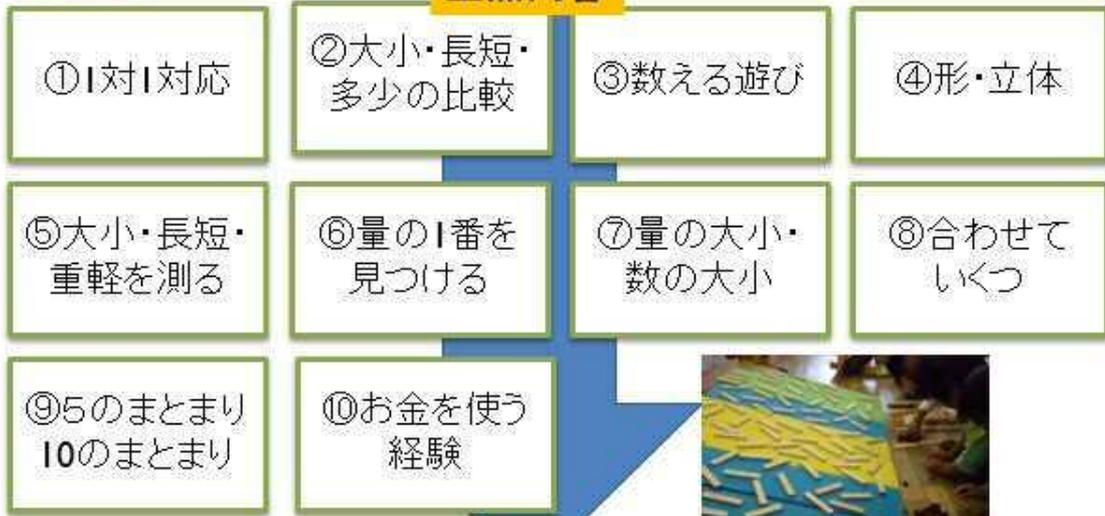
<かず>の基礎となる「学びの土台の力」=「学びの芽」は、十程度の数概念の形成が重要となります。十程度の数概念は、整数を小さい方から唱えることができる：数唱や、数字と具体物を一対一対応させて物の数を数えていく：計数や、10を一つのまとまりとして理解したり内包関係を認識したりする：概括や、全体からいくつかを抽出する：抽出 等の力により形成されるものです。また、「多い・少ない」「長い・短い」「大きい・小さい」などの未測定の理解や、仲間あつめなどの集合づくり、大きさの順に並べたりする系列化の思考や保存の概念、さらには、自然界のさまざまな形に気付いたり、積み木やボールなどの立体に触れたりする経験を経て、<かず> 学びの土台が作り上げられます。<かず> のカテゴリのねらいは、「かんたんな数や量や形の感覚を生活や遊びの中で体感する。」「体験したことを数や量や形を使って表現する。」としています。





かんたんな数や量や形の感覚を生活やゲームのなかで体感する。
体験したことを数や量や形を使って表現する。

重点内容



具体物を用いた活動を通して、数・量・図形についての感覚を豊かにし、その意味を理解する。
数量やその関係を言葉、数、式、図などに表したり読み取ったりする。



<かず> のカテゴリの10項目の重点内容は次のとおりです。

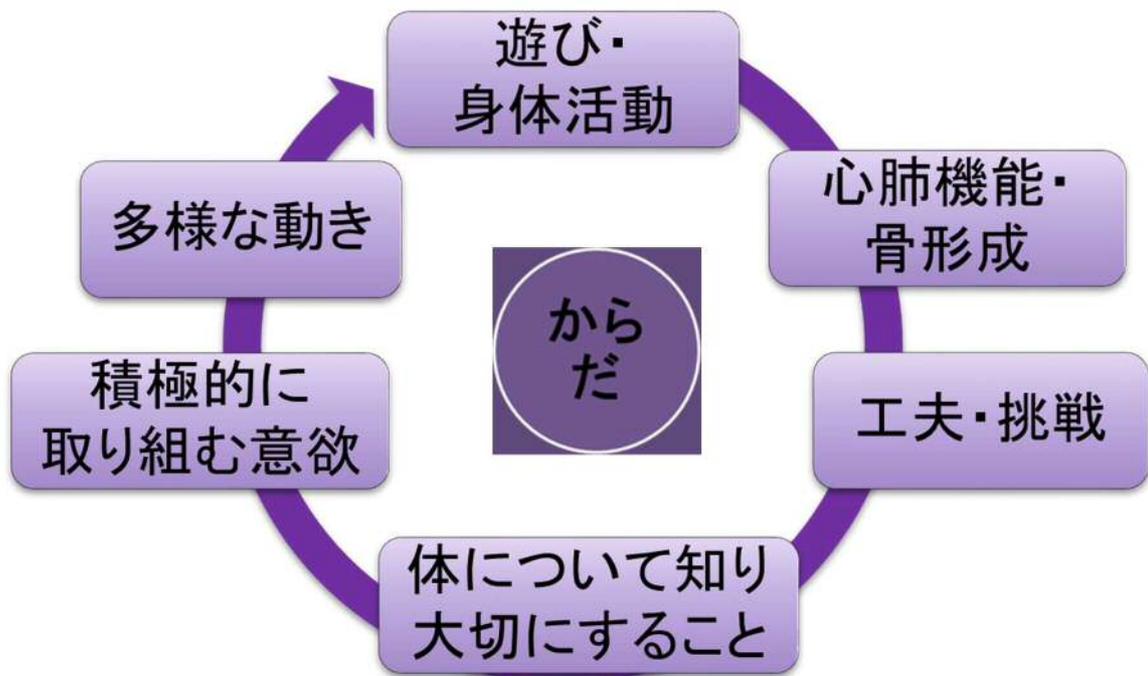
- ①指さしのリズムと口（言葉）のリズムが合うように、1対1対応させて数える遊びをする。
- ②大きい小さい、長い短い、多い少ないなどを比べる機会を持つ。
- ③縄跳びの跳ぶ数など、続けて数える遊びをする。
- ④形を組み合わせたり立体に触れたりする遊びをする。
- ⑤身近なものの大小・長短・重い軽いなどいろいろなものを測る。
- ⑥身近な量の一番を見つける遊びをする。
- ⑦玉入れなど、量の大小と数の大小を同時に比べる遊びをする。
- ⑧少ない数で「合わせていくつになるか」クイズをする。
- ⑨5や10のまとまりのゲームをする。
- ⑩買い物ごっこなど、お金を使う経験を取り入れる。

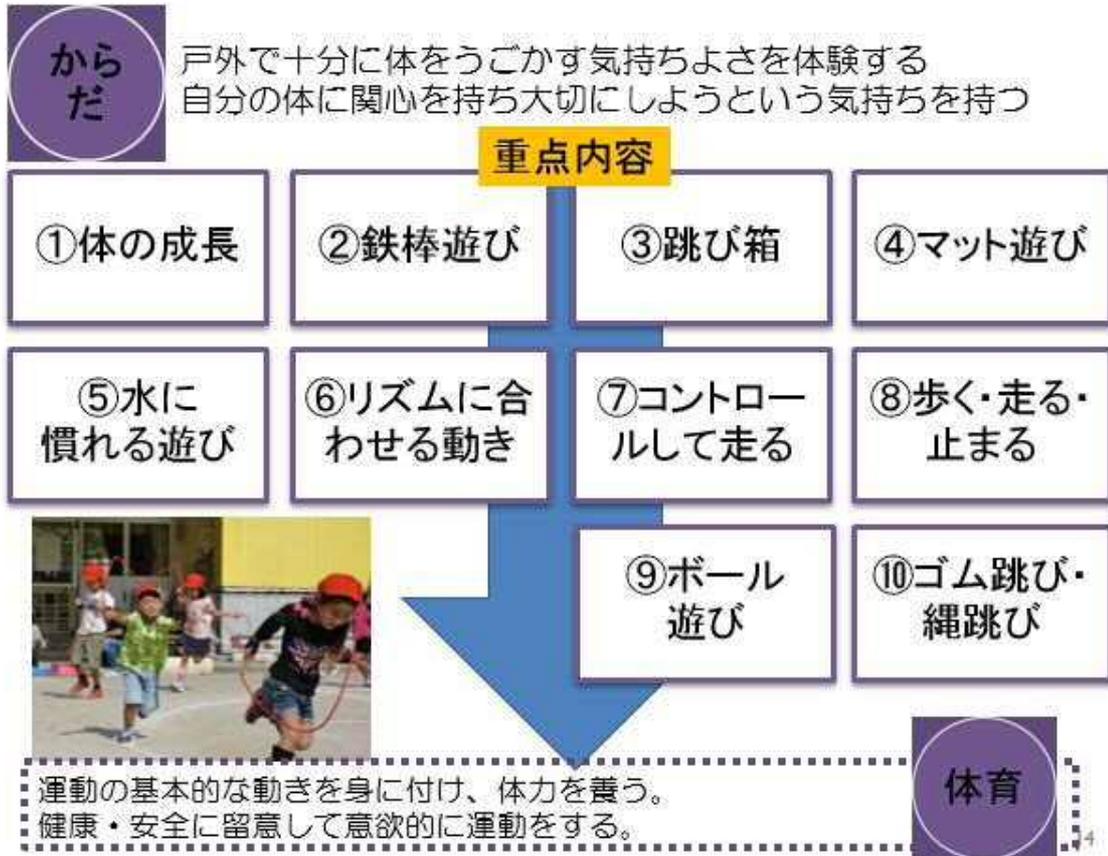
<からだ>

からだ

- ◆戸外で十分に体を動かす気持ちよさを体験する
- ◆自分の体に関心を持ち大切にしようという気持ちを持つ

幼児は心身全体を働かせて様々な活動を行うので、心身の様々な側面の発達にとって必要な経験が相互に関連し合い積み重ねられていきます。このため、幼児期において、遊びを中心とする身体活動を十分に行うことは、多様な動きを身に付けるだけでなく、心肺機能や骨形成にも寄与するなど、生涯にわたって健康を維持したり、何事にも積極的に取り組む意欲を育んだりするなど、豊かな人生を送るための基盤づくりとなります。遊びとしての運動は、大人が一方向的に幼児にさせるのではなく、幼児が自分たちの興味や関心に基づいて進んで行うことが大切であるため、幼児が自分たちで考え工夫し挑戦できるような指導が求められます。また、自分の体について知り、清潔にしたり大切にしたりする気持ちを芽生えさせることも大切です。<からだ>のカテゴリのねらいは、「戸外で十分に体を動かす気持ちよさを体験する。「自分の体に関心を持ち大切にしようという気持ちを持つ。」とします。





<からだ>のカテゴリの10項目の重点内容は次のとおりです。

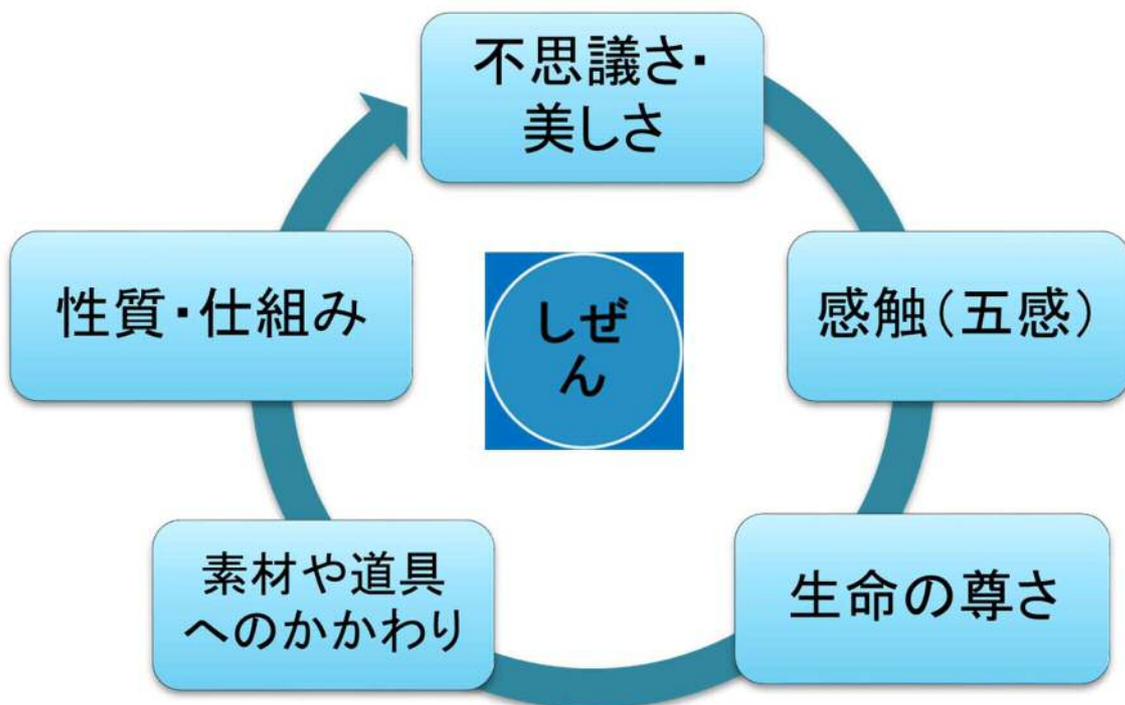
- ①体の成長を知ること、自分の体に関心を持ち、大切にしようとする。
- ②進んで戸外で体を動かして遊び、鉄棒等を使った遊びを楽しむ。
- ③「跳び箱」等、手足の力を総合的に使った運動遊びを楽しむ。
- ④「マット遊び」等、体を柔軟に使う運動遊びを楽しむ。
- ⑤水にかかる・浮く等、水に慣れる遊びをする。
- ⑥音やリズムに合わせて体の動きをコントロールしたり表現したりする面白さを味わう。
- ⑦全力でトラックを走ったり、くねくね走や障害物走をしたり、体をコントロールして走ることを楽しむ。
- ⑧「いす取りゲーム」「こおり鬼」など、歩く・走る・止まるなど体を操作する遊びをする。
- ⑨ドッチボール、サッカー遊びなど、基本的な動きを多様な動きに発展させるボール遊びを楽しむ。
- ⑩ゴム跳び、縄跳びなど、全身を使った跳躍運動を楽しむ。

<しぜん>

しぜん

- ◆自然や生き物の不思議さや生命の大切さを感じる
- ◆素材や道具等にかかわり、性質や仕組みに興味関心を持つ

自然に触れて遊ぶ中で、幼児は全身で自然を感じ取る体験により、心がいやされると同時に、多くのことを学んでいます。特に、幼児期において、自然に触れて生活することの意味は大きく、できるだけ身近な自然に触れる機会を多くし、幼児なりにその大きさ、美しさ、不思議さなどを全身で感じ取る体験をもつようにすることが大切です。また、幼児は、様々な物に囲まれて生活し、それらに触れたり、確かめたりしながら、その性質や仕組みなどを知っていきます。初めは、感触を試し、物とのかかわりを楽しんでいます。興味をもって繰り返しかかわる中で、次第にその性質や仕組みに気づき、幼児なりに使いこなすようになります。物の性質や仕組みが分かり始めるとそれを使うことによって一層遊びが面白くなり、物とのかかわりが深まります。物の性質や仕組みに気づくことと遊びが面白くなることが循環していきます。<しぜん>のカテゴリのねらいは、「自然や生き物の不思議さや生命の大切さを感じる。」「素材や道具等にかかわり、性質や仕組みに興味関心を持つ。」とします。





自然や生き物の不思議さや生命の大切さを感じる
 素材や道具等にかかわり、性質や仕組みに興味関心を持つ

重点内容



具体的な活動や体験を通して、社会、自然、人々との関わりに関心を持ち、自分や生活について考える。
 その過程で生活上必要な習慣や技能を身に付ける。



<しぜん> のカテゴリの 10 項目の重点内容は次のとおりです。

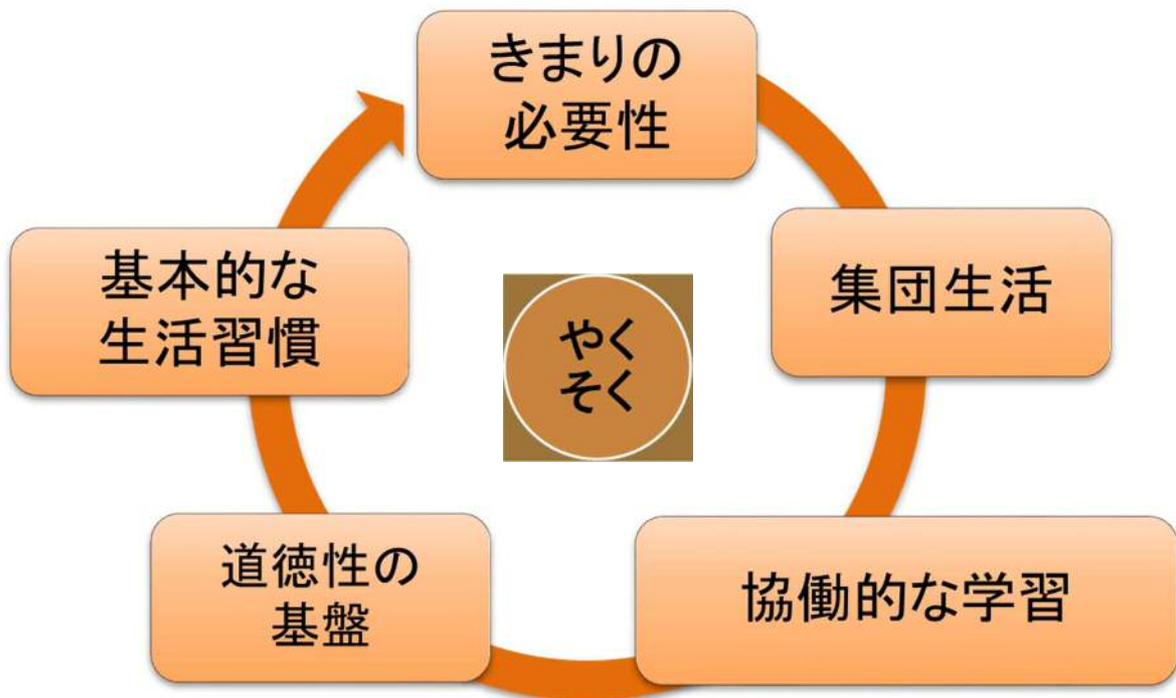
- ①身近な草花や生き物に親しみ、自然の不思議さに気付く遊びをする。
- ②土・砂の性質に気付き面白さが分かる遊びをする。
- ③野菜や花の特徴や生長に興味をもって世話をする。
- ④吹き流し、紙飛行機、シャボン玉など、風に興味をもち性質に気付く遊びをする。
- ⑤水や泡などの性質に気付き面白さがわかる遊びをする。
- ⑥木の葉や実を集め、自然の変化の不思議さや美しさに気付く遊びをする。
- ⑦転がし遊びやゴムのおもちゃ作りなど、物事の法則性に気付き面白さがわかる遊びをする。
- ⑧身近な小動物や生き物の命の大切さに気付きながら世話をする。
- ⑨雪遊びや生活の変化など、雪や氷、冬の自然のおもしろさや不思議さに気付く遊びをする。
- ⑩スタンドグラスや影踏み遊びなど、光と影に興味を持ち性質に気付く遊びをする。

<やくそく>

やく
そく

- ◆友だちと折り合いをつけ、きまりの必要性に気付き、気持ちを調整する
- ◆基本的な生活習慣を身に付け、健康や安全に気を付けて生活する

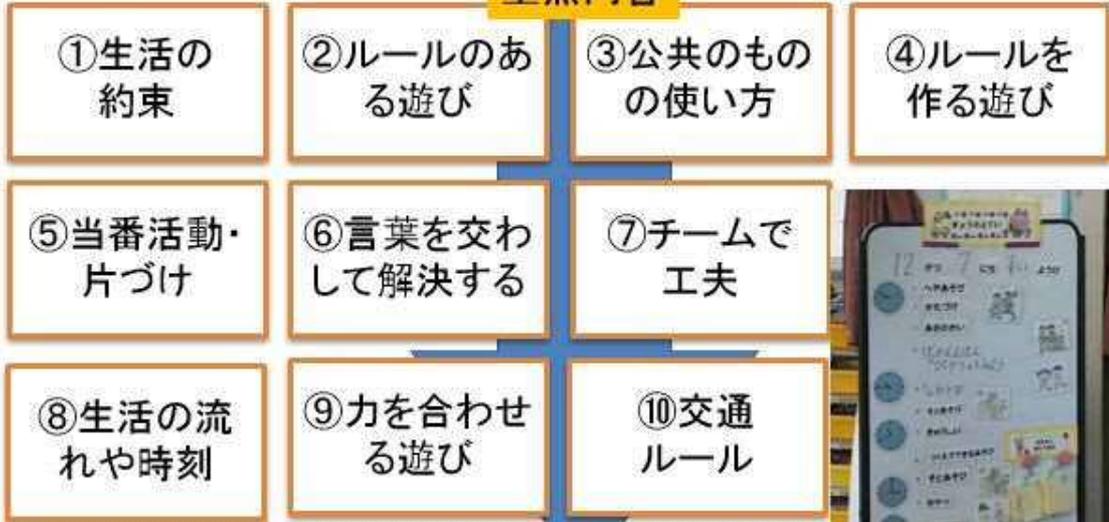
人と人とが尊重し合い、協調して社会生活を営んでいくためには、守らなくてはならない社会の決まりがあります。幼児は、初めからそうした決まりを守ることができるわけではありません。また、集団行動の訓練のように画一的に指導し、守らせさえすればよいということでもありません。幼児自身が、集団生活や友達との遊びの中で様々な決まりがあることに気付き、決まりの必要性やその意味を幼児なりに理解した上で、守ろうとする気持ちをもつことが大切です。それとともに、それぞれが基本的な生活習慣を身に付け、健康や安全に気を付けて生活しようとする気持ちを育むことも合わせて大事なことです。<やくそく>のカテゴリのねらいは、「友だちと折り合いをつけ、きまりの必要性に気付き、気持ちを調整する。」「基本的な生活習慣を身に付け、健康や安全に気を付けて生活する。」とします。





友だちと折り合いをつけ、きまりの必要性に気付き、
気持ちを調整する
基本的な生活習慣を身に付け、健康や安全に気を付けて生活する

重点内容



仲よく助け合い、自分たちで役割を分担し協力する。
みんなで過ごすための約束を守り、よりよい方法を工夫する。
友だちのことを考えて行動する。



<やくそく> のカテゴリの 10 項目の重点内容は次のとおりです。

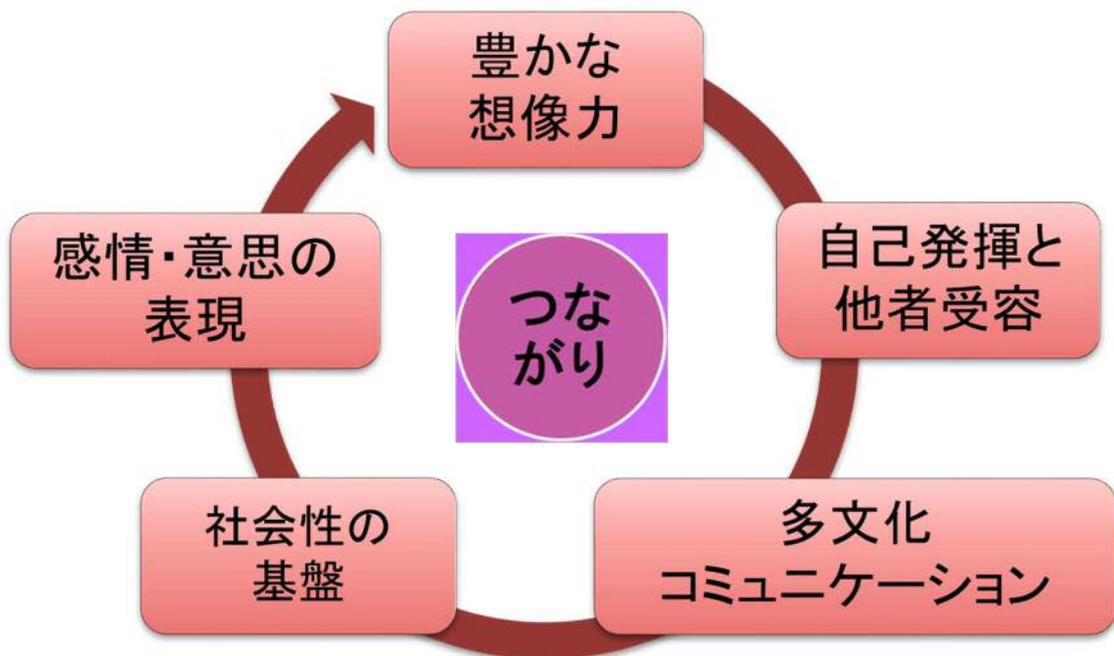
- ①登園してから降園するまでの一日の生活の約束をまもって生活する。
- ②伝承遊びや運動遊びなど、様々なルールのある遊びをする。
- ③みんなで使うものや公共の物の使い方を考える。
- ④ボール遊びや渦巻きじゃんけんなど、ルールを作る遊びをする。
- ⑤当番活動や片づけなどの決まりを作ることで、皆が気持ちよく生活できることに気付く。
- ⑥友だちと意見が違った時など、言葉を交わして解決する経験をする。
- ⑦大勢の友だちがかかわる遊びを通して、ルールなど工夫したりチームに分かれたりして遊びを発展させる。
- ⑧集団生活の流れや時刻を意識し、皆と一緒に行動しようとする。
- ⑨大縄跳びなど、みんなで力を合わせる遊びをする。
- ⑩交通ルールを守って歩くなど、危険から身を守る知識を持つ。

つな
がり

<つながり>

- ◆自分の力で行動する喜びを味わい、協働する体験を重ねる
- ◆いろいろな人とコミュニケーションをとる楽しさを体験する

幼児期には、身近な人や周囲の物、自然などの環境とかかわりを深め、興味・関心の対象を広げ、認識力や社会性を発達させていくとともに、食事や排泄、睡眠といった基本的な生活習慣を獲得していく時期でもあります。また、子ども同士で遊ぶことなどを通じ、豊かな想像力をはぐくむとともに、自らと違う他者の存在や視点に気づき、相手の気持ちになって考えたり、時には葛藤をおぼえたりする中で、自分の感情や意志を表現しながら、協同的な学びを通じ、十分な自己の発揮と他者の受容を経験していきます。こうした体験を通じ、道徳性や社会性の基盤がはぐくまれていくものです。<つながり>のカテゴリのねらいは、「自分の力で行動する喜びを味わい、協働する体験を重ねる。」「いろいろな人とコミュニケーションをとる楽しさを体験する。」とします。



つな
がり

自分の力で行動する喜びを味わい、協働する体験を重ねる
いろいろな人とコミュニケーションをとる楽しさを体験する

重点内容

①地域の人
とふれあう

②はじめまし
てALT

③行事の
招待状

④小学生と
の交流

⑤ALTの国
の歌・手遊び

⑥地域の人
から教わる

⑦役割遊び

⑧ALTの国
の絵本



⑨小学校へ
のあこがれ

⑩ALTの国
の冬の行事

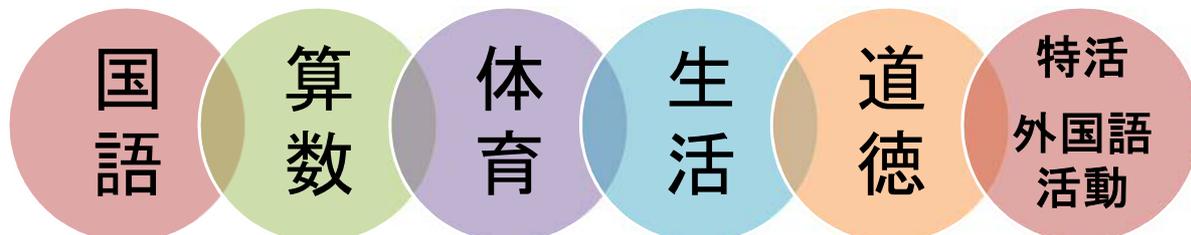
自分の力で行動する喜びを味わい、協働する体験を重ねる。
異文化を知り、いろいろな人とコミュニケーションを図る楽しさを
体験する。

特活
外国語
活動

<つながり>のカテゴリの10項目の重点内容は次のとおりです。

- ① 異年齢交流や他園との交流、地域の人に触れ合う機会を持つ。
- ② ALTとはじめましての出会いをする。
- ③ 七夕お楽しみ会や運動会にむけて、地域の人や卒園生にあてた絵や文字の招待状をつくる。
- ④ 学校探検などで地域の小学生と交流を持つ。
- ⑤ ALTの国の歌や手遊びを楽しむ。
- ⑥ 地域の方々や小学生に遊びを教わりながら遊んだり、運動会などに一緒に参加したりする。
- ⑦ 仕事に関心を持ち、お店屋さんごっこなど役割遊びの中に取り入れ発展させる。
- ⑧ ALTの国の絵本などを楽しむ。
- ⑨ 小学校へのあこがれを育てる遊びや活動をする。
- ⑩ ALTの国の冬の行事や遊びの歌を楽しむ。

4 接続期のカリキュラムのねらいと重点内容〈1年生〉



接続期のカリキュラムのうち、1年生については、5歳児の6つの重点カテゴリからつながる内容を抽出し、重点的に取り組む内容を挙げています。1年生の教育課程内の教科・領域、「国語」「算数」「生活」「音楽」「図画工作」「体育」「道徳」「特別活動」のなかで、5歳児の6つの重点カテゴリ〈ことば〉〈かず〉〈からだ〉〈しぜん〉〈やくそく〉〈つながり〉とつながるものをそれぞれ〈国語〉〈算数〉〈体育〉〈生活〉〈道徳〉〈特活・外国語活動〉の6つとしました。〈外国語活動〉については、名張市が小中一貫教育において、1、2年生からの実施を進めているところで、接続期のカリキュラムが実施されれば、5歳児から10年間を見据えた一貫教育が実現します。

小学校1年生の6つのカテゴリについては、それぞれの教科・領域としての目標がありますが、接続期のカリキュラムにおいては、それぞれのカテゴリごとに重点におくねらいを定めています。

国語

〈国語〉

- ◆本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読む。
- ◆大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞いたり話したりする。
- ◆経験したことや想像したことなどをつながりのある文章で書く。

算数

〈算数〉

- ◆具体物を用いた活動を通して、数・量・図形についての感覚を豊かにし、その意味について理解する。
- ◆数量やその関係を言葉・数・数・式などに表したり読み取ったりする。

体育

<体育>

- ◆運動の基本的な動きを身に付け、体力を養う。
- ◆健康・安全に留意して意欲的に運動をする。

生活

<生活>

- ◆具体的な活動や体験を通して、社会、自然、人々との関わりに関心を持ち、自分や生活について考える。
- ◆その過程で生活上必要な習慣や技能を身に付ける。

道徳

<道徳>

- ◆仲よく助け合い、自分たちで役割を分担し協力する。
- ◆みんなで過ごすための約束を守り、よりよい方法を工夫する。
- ◆友だちのことを考えて行動する。

特活 外国語 活動

<特活・外国語活動>

- ◆自分の力で行動する喜びを味わい、協働する体験を重ねる。
- ◆異文化を知り、いろいろな人とコミュニケーションを図る楽しさを体験する。

しっかりつなぐ育ちのバトンカリキュラム

	5歳児				1年生			
	年長Ⅰ期	年長Ⅱ期	年長Ⅲ期	年長Ⅳ期	小1Ⅰ期	小1Ⅱ期	小1Ⅲ期	
	4～5月	6～8月	9～12月	1～3月	4～5月	6～11月	12～3月	
ことば	言① 「絵本コーナー」で、絵本や図鑑に触れる。 言② 保育者が絵本の読み聞かせを継続することで、言葉に興味・関心を広げられるようにする。	言③ なぞなぞ、しりとり、早口言葉や音節を意識した言葉遊びを楽しむ。 言④ 保育者が子どもの言葉に共感し、豊かな言葉にして返すことで表現する土台を育む。 言⑤ 地図や迷路遊びに興味をもち、絵や線を描く遊びを楽しむ。	言⑥ 話し合いで決まったことや予定等を保育者が書いておき、ひらがなに触れる機会を増やす。 言⑦ おはしの持ち方から鉛筆の持ち方の基礎を身に付ける。	言⑧ カルタ・すごろく遊びをして、文字や言葉に興味・関心を広げる。歌のなかの言葉に親しんだり、リズム楽器を使ったりする楽しさを味わう。 言⑨ お手紙ごっこをしたり、小さな枠の中に絵や模様を描く遊びをしたりする。	国「どうぞよろしく」で自分の名前を丁寧に書き自己紹介をする。 国「ぶんをつくらう」で主語と述語の関係に注意して「～が、～する。」という文型の文を書く。	国「あいうえおであそぼう」で語のまとまりや内容、言葉のおもしろさを楽しみながら読む。 国「くじらぐも」で場面の様子を想像し、その様子が表れるように音読する。 国「ひらがなあつまれ」で平仮名を読んだり書いたりする。	国「ものの名まえ」でお店屋さんごっこをし、商品の絵と名前をカードに書いたり、看板やチラシを作ったりする。 国「てがみでしらせよう」で経験したことから題材を選び、文と文の続き方に注意して手紙を書く。	国語
かず	数① 指さしのリズムと口(言葉)のリズムが合うように、1対1対応させて数える遊びをする。 数② 大きい小さい、長い短い、多い少ない等を比べる機会を持つ。	数③ 縄跳びの跳ぶ数等、続けて数える遊びをする。 数④ 形を組み合わせた立体に触れたりする遊びをする。 数⑤ 身近なもの的大小・長短・重い軽いなどいろいろなものを測る。	数⑥ 身近な量の一番を見つける遊びをする。 数⑦ 玉入れ等、量の大小と数の大小を同時に比べる遊びをする。 数⑧ 買い物ごっこ等、お金を使う経験を取り入れる。	数⑨ 5や10の数のまとまりのゲームをする。 数⑩ 少ない数で合わせていくつになるかクイズをする。	算「なかまつくりとかず」で絵に数図ブロックを1対1で対応させて置いて数え、数字で表す。 算「いくつといくつ」で10までの数の合成分解をし、10の補数について求める。	算「たしざん」で身近な場面で見つけた算がでる場面を見つけ、たし算の式に表して正しく計算する。 算「どちらがながい」「どちらがおおい」「どちらがひろい」で長さや体積や面積等の大きさに関心を持ち、比べ方を考えて比べる。	算「おおきいかず」で120ぐらいまでの数について、大きさを比べ、10のまとまりで数の合計や分解をする。	算数
からだ	体① 体の成長を知ることで、自分の体に関心を持ち、大切にしようとする。 体② すすんで戸外で体を動かして遊び、鉄棒等を使った遊びを楽しむ。	体③ 「跳び箱」等、手足の力を総合的に使った運動遊びを楽しむ。 体④ 「マット遊び」等、体を柔軟に使う運動遊びを楽しむ。 体⑤ 水にかかる・浮く等、水に慣れる遊びをする。	体⑥ 音やリズムに合わせて動きをコントロールしたり表現したりする面白さを味わう。 体⑦ 全力でトラックを走ったり、くねくね走や障害物走をしたり、体をコントロールして走ることを楽しむ。 体⑧ 「いす取りゲーム」「こおり鬼」等、歩く・走る・止まる等体を操作する遊びをする。	体⑨ ドッジボール、サッカー遊び等、基本的な動きを多様な動きに発展させるボール遊びを楽しむ。 体⑩ ゴム跳び、縄跳び等、全身を使った跳躍運動を楽しむ。	体 固定施設や器械・器具等を使いたいいろいろな遊び方を楽しんだり、友だちと競争したりして、運動する楽しさに触れる 体 かけっこやリレー遊びを楽しく行い、いろいろな方向に走ったり、低い障害物を走り越えたりする。	体 水に顔をつけ、水中で目を開けたり、口や鼻から息を吐いたり、つかまって浮いたりする。 体 マットを使っているいろいろな方向への転がり、手で支えての体の保持や回転をする。 体 的当てやキャッチボール、攻めと守りのあるボールゲームをする。	体 ボールをける、止める等の簡単なボール操作やボールを持たないときの動きを使って、ゲームをする。 体 跳び箱を使って跳び乗りや跳び下り、馬跳び、タイヤ跳び等をして楽しく遊ぶ。	体育
しぜん	自① 身近な草花や生き物に親しみ、自然の不思議さに気付く遊びをする。 自② 土・砂の性質に気付き面白さが分かる遊びをする。	自③ 野菜や花の特徴や生長に興味をもって世話をする。 自④ 吹き流し、紙飛行機、シャボン玉等、風に興味をもち性質に気付き遊びをする。 自⑤ 水や泡等の性質に気付き面白さが分かる遊びをする。	自⑥ 木の葉や実を集め、自然の変化の不思議さや美しさに気付く遊びをする。 自⑦ 転がし遊びやゴムのおもちゃ作り等、物事の法則性に気付き面白さが分かる遊びをする。 自⑧ 身近な小動物や生き物の命の大切さに気付きながら世話をする。	自⑨ 雪遊びや生活の変化等、雪や氷、冬の自然のおもしろさや不思議さに気付く遊びをする。 自⑩ ステンドグラスや影踏み遊び等、光と影に興味を持ち性質に気付き遊びをする。	生「さあ、さんぽにいこう」で身近な生き物や草花に興味をもってかわり、紹介する。 生「さかせてみたいな はないっぱい」では、植物のたねまきから水やり、草取り等継続した世話をする。	生「みずやつちであそぼう」で遊びを考えることで素材の特徴を捉え、自然の不思議さ、面白さを実感する。 生「はや木のみであそぼう」で秋さがして見つけてきた葉や木の実を用いた遊びや作品づくりを通して季節の変化に気付く。	生「ふゆの たからさがしだ」でこれまでと同じ場所に行き、諸感覚を働かせて春・夏・秋と比べての違いに気付く。 生「かぜやゆきとあそぼう」で冬の特徴である風、雪、氷等を遊びに工夫して生かす。	生活
やくそく	約① 登園してから降園するまでの一日の生活の約束をまもって生活する。 約② 伝承遊びや運動遊び等、様々なルールのある遊びをする。 約③ みんなで使うものや公共のものを使い方を考える。	約④ ボール遊びや渦巻きじゃんけん等、ルールを作る遊びをする。 約⑤ 当番活動や片づけ等の決まりを作ることで、皆が気持ちよく生活できることに気付く。 約⑥ 友だちと意見が違った時等、言葉を変えて解決する経験をする。	約⑦ 大勢の友だちがかかわる遊びを通して、ルール等を工夫したりチームに分かれたりして遊びを発展させる。 約⑧ 集団生活の流れや時刻を意識し、皆と一緒に行動しようとする。	約⑨ 大縄跳び等、みんなで力を合わせる遊びをする。 約⑩ 交通ルールを守って歩く等、危険から身を守る知識を持つ。	生「できるといいね」でトイレ、手洗い、靴箱、ロッカー等の使い方がわかり、気持ちの良い学校生活を送るためにきまりを守ることが大切であることに気付く。 生「じゅぎょうのやくそく」で授業中の決まりや約束を理解しこれからの学習への意欲を持つ。	道「たびに出て」の読み物資料を学習し気持ちのよいあいさつ言葉づかい等に気を付けて生活しようとする。 道「すなおにのびのびと」を学習し、うそをついたりごまかしたりしないで、素直に伸び伸びと生活しようとする。	道「いのちを大切に」を学習し生きることの喜びを感じ命を大切にすることを学ぶ。 道 読み物資料「黄色いベンチ」を学習し、約束やきまりを守り、みんなが使うものを大切にしようとする。	道徳
つながり	つ① 異年齢交流や他園との交流、地域との交流の機会を持つ。 つ② ALTとはじめましての出会いをする。	つ③ 七夕お楽しみ会や運動会にむけて、地域の人や卒園生にあてた絵や文字の招待状をつくる。 つ④ 学校探検等で地域の小学生と交流を持つ。 つ⑤ ALTの国の歌や手遊びを楽しむ。	つ⑥ 地域の方々や小学生に遊びを教わりながら遊んだり、運動会等と一緒に参加したりする。 つ⑦ 仕事に関心を持ち、お店屋さんごっこ等役割遊びの中に取り入れ発展させる。 つ⑧ ALTの国の絵本等を楽しむ。	つ⑨ 小学校へのあこがれを育てる遊びや活動をする。 つ⑩ ALTの国の冬の行事や遊びの歌を楽しむ。	生「ともだちになろう」で新しい友だちと仲よく遊びながら人間関係を作っていくようにする。 生 2回目の学校探検「おしえてください」で、先生や学校で働く人たちと話をしたり上級生といっしょに学習したりする。	生「みなさんようこそ」で幼稚園・保育所の子たち、地域の方々等のお客さんと遊びを楽しむ活動をする。 外 ALTとの出会いを通して、身振り手振りや表情を使って気持ちを表す方法を知る。	生「あたらしい1年生のために」で2年生に向けての期待や自覚を持つとともに次の1年生にしてあげられることを考える。 外 外国の祭りや行事を通して異文化の存在を知る。	外国語活動
育みたい資質・能力	遊びや生活を通じた気付き				教科等を通じた学び			
	幼児の自発的な活動である遊びや生活の中で、美しさを感じたり、不思議さに気付いたり、できるようになったこと等を使いながら、試したり、いろいろな方法を工夫したりすることを通じて育む。				教科等の指導・活動を通じて育む			
	1. 知識や技能の基礎 :遊びや生活の中で、豊かな体験を通じて、何を感じたり、何に気付いたり、何が分かったり、何ができるようになるのか。				1. 知識や技能 :何を知っているか、何ができるか。			
2. 思考力・判断力・表現力等の基礎 :遊びや生活の中で、気付いたこと、できるようになったこと等も使いながら、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか。				2. 思考力・判断力・表現力等 :知っていること、できることをどう使うか。				
3. 学びに向かう力・人間性等 :心情、意欲、態度が育つ中で、いかによりよい生活を営むか。				3. 学びに向かう力・人間性等 :どのように社会・世界と関わり よりよい人生を送るか。				

しっかりつなぐ育ちのバトンカリキュラム

「実践事例集」

平成 29 年度カリキュラム実践モデル園

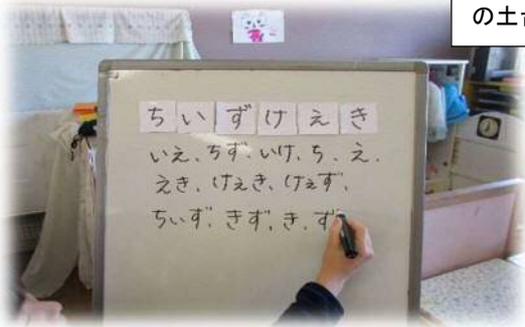
- ◆ 名張幼稚園
- ◆ 桔梗南幼稚園
- ◆ 錦生保育所

実践事例

ことば

- ◆体験したことを言葉や絵、身振りにより表現する。
- ◆いろいろな線や形を自由に描く。

話し言葉を十分に使用し、言葉で考える力が育っていることが、重要な「学びの土台の力」となります。



ひらがな習得の前段階で1文字がひとつの音を表し、ことばは「音のつながり」ということを理解します。1文字違うだけで意味が変わるだけやれや韻をふむ詩なども楽しめます。

絵本や物語に親しみ、自分の気持ちを言葉で表現したり、言葉を豊かにしたりします。

写し絵
絵や模様を描く遊びができるような保育室の環境を準備しておくことで、子どもたちがすすんで小さな枠の中に色を塗ったり、絵を写したりします。



小さな枠の中に絵や模様を描く遊びを取り入れることで、線や形を見て描ける力(視覚～運動統合能力)を育みます。



しぜん

図鑑で調べる
身近な小動物を継続して観察したり、その特性や食べ物などを図鑑で調べたりしながら、親しみをもって世話をします。

♪
りんりんりんりん、
りんりんりん～



クラス活動で歌うことで、友だちと自然に口ずさむ姿があります。歌の中の言葉に親しんだり、リズム楽器を使ったりする楽しさを味わいます。思いのままに歌ったり、リズム遊びを楽しんだりして表現の土台を育みます。

- ◆かんたんな数や量や形の感覚を生活や遊びの中で体験する。
- ◆体験したことを数や量や形を使って表現する。

かず

遊びや生活の中で、数・文字に親しむ経験を重ねながら、興味・関心・感覚を深めていきます。



いらっしやいませ！！

つながり

お店やさんごっこ
心が動くお店屋さん見学したことを言葉で伝え合いながら、お店屋さんやお客さんになり切ります。

かず

これは、何円にしようかな



2こ、200えん。

お店やさんごっこ（準備）
「どうしたらうまくいくかな」と相談し、自分たちで役割を決め、工夫したり協力したりする姿も見られます。



なんまいとれるかな？

かず

やくそく

カルタ すごろく
文字や数への興味関心が芽生え始めるこの時期に、カルタ遊びを楽しみます。ルールや順番を守ることで友だちと遊びを楽しめることを経験します。

やったー！
もうすぐやな

やくそく



1時間単位の時刻、曜日や昨日、今日、明日がわかり、使うことができるようになります。

11月は、
楽しいことがいっぱい

予定を見て、子どもが話し出します。見通しをもつことの経験となります。

実践事例

しぜん

- ◆自然や生き物の不思議さや生命の大切さを感じる。
- ◆素材や道具等にかかわり、性質や仕組みに興味関心を持つ。

自然とのかかわり



「カマキリにえさをやろう！」
友だちと手分けしてバッタを捕まえ、カマキリのえさにしています。



身近な生き物とかかわる中で、生命の神秘、生命の大切さなども感じ学んでいきます。自分たちで工夫したり調べたりして、より詳しく知ろうとする姿も出てきます。

ここもいるから、うごかしてみよう。

よし！ Rくん
そっち もってな。
せ〜の！

つぎは、これ
うごかそう！

ダンゴムシ発見！

ダンゴムシがプランターの下にいることは経験から知っているため、友だちと協力しながら次々とプランターを動かして、見つけることを楽しんでいきます。



ひまわり めっちゃ おおきい。どれくらいかな？

わあ〜！ Aちゃんと
2人つながるくらい
あるで！

きょうは、13こ
さいてるよ！

ひまわりと背くらべ

ひまわりを育てる中で、花の特徴や生長に興味をもつようになります。また、ひまわりの高さくらべをしたり、花の数を数えたりするなど、測ったり数えたりする機会をもちます。

かず

自然素材とのかかわり

石鹸・泡クリーム

泡あそびを繰り返し遊び込むことで水やせっけんの性質を感じ取ります。

水が少ないほうが固い泡ができることに気づくなど、繰り返し素材と関わることで、試行錯誤して遊ぶ楽しさを味わっていきます。

自然素材そのものに触れて楽しむ中で特性を知り、イメージを広げていきます。

どうやって このかたい
クリームつくったの？



ぶどうみたい

ことば

カメみたい

シャボン玉

テラスが濡れて水たまりのようになっているところにシャボン玉が落ちると壊れないことを発見しました。



ちょっとずつ（息を）いれる
と大きくなった！

オッケー！ながすよ～
ここからでいいの？

ここ ちょっと 水ほしい！

泥んこ遊び

クラス活動として一つの遊びをすることで、自分たちで役割分担をする姿が見られます。自分のしてほしいことを相手に伝え、その要求にこたえ等協力する姿が見られます。

やくそく



土・水に触れることを通して・・・水の感触・土・砂の感触を楽しみ、水に親しむようになり、水が混じることで状態が変化することなどに気づきます。また、友だちと一緒に工夫したり、力を合わせたりしながら、共同性が育まれます。

実践事例

からだ

- ◆戸外で十分に体を動かす気持ちよさを体験する。
- ◆自分の体に関心を持ち大切にしようという気持ちを持つ。

遊びを中心とする身体活動を十分に行うことで多様な動きを身につけ、何事にも積極的に取り組む意欲を育みます。

プール遊び
スーパーボールひろいやリングくぐりなどの遊びに夢中になって、楽しく挑戦することで、水に対する抵抗をなくします。

何こ ひろえるかな？

かず



大縄とび
友だちが跳ぶのを応援したり、一緒に数を数えたりする中で、自分も積極的に体を動かすようになります。大縄跳びが苦手な友だちが挑戦して、たくさん跳べたことに刺激を受けて、挑戦する意欲が育まれます。

やくそく

すごいな Kちゃん
がんばれ！

きょうも マラソン
する～！

やる気がでてきた！

マラソン
クラスのみんなや異年齢で、好きな曲に合わせて毎日、体操やマラソンをします。



やくそく

- ◆友だちと折り合いをつけ、きまりの必要性に気付き、気持ちを調整する。
- ◆基本的な生活習慣を身に付け、健康や安全に気を付けて生活する。

ごっこ遊びを通して・・・子どもたちはまねっこや見立て遊びからごっこ遊びへと発展させ、遊びの中で友だちとのかかわりを広げながら、自分のイメージを言葉や動作で表現することを楽しみます。自己主張しながらも、他者を受け止める、協力して遊ぶなど社会性も育まれます。

遊具で修行

共通のアニメの登場人物をイメージして、友だちと一緒にいろいろな遊具に楽しんで取り組もうとします。

わたしも「ドラゴン〇〇しゅぎょう」する！



もっと つよくなって「ししょう」になる！

つながり



やくそく

自分たちで考え工夫し、挑戦できるようにきっかけづくり

興味関心のある絵本を題材にして表現を工夫します。今まで練習してきた縄を使った動きから、ピーターパンが空を飛ぶところや、トンネル、テントをどう縄で表現したらよいか等、みんなで考えます。

手洗いうがい

外遊びが終わったら、手洗いうがいをします。自分の体に関心もち、大切にしようと思います。



実践事例

つながり

- ◆自分の力で行動する喜びを味わい、協働する体験を重ねる。
- ◆いろいろな人とコミュニケーションをとる楽しさを体験する。

小学生とも交流を通じて、親しむ気持ちやつながりが生まれ、小学校へのあこがれの気持ちにつながります。

じゃんけん列車、
めっちゃ楽し
かった～！



〇〇小学校 1年生と
〇〇幼稚園年長児との交流

- ① 6月30日
「おむすびころりん」群読、
歌「世界中の子どもたちが」
じゃんけん列車 等
- ② 9月15日
学校探検
グループごとに特別教室の案内やクイズ
をしました。1年教室では、ランドセル
を背負わせてもらう場面もありました。



もっと言いたい子もいる
と思うけど、あと二人に
します。

音楽のへやが
楽しかった～！



他の教室も
もっと行きたかった
です！

ALTと外国の歌や手遊びを通して交流する中で、異文化に触れ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする気持ちが育まれます。



ALTとの交流

英語の歌やリズムにあわせた遊び、紙芝居などをいっしょに楽しみます。ALT（外国語指導助手）の先生と交流することでコミュニケーションを楽しんでいます。

文字のスタンプを一文字ずつおして、招待状を書きます。



ことば

年少さんに招待状

お店やさんごっこに年少さんを誘うために、絵や文で招待状を作ります。親しむ気持ちやつながりが育まれ、年長さんとしての自覚が生まれます。

身近な人々とのかかわりを深め、社会性や認識力を育みます。



コマがまわせるようになったよ～！

あった～！

祖父母や地域の人と遊ぶ

七夕会、焼き芋会、お正月遊びなど、季節の行事に地域の方々や祖父母を招き、遊びを教わりながら楽しみます。



「しっかりつなぐ育ちのバトンカリキュラム」試行実践協力園

名張市立名張幼稚園

名張市立桔梗南幼稚園

名張市立大屋戸保育所

名張市立薦原保育所

名張市立錦生保育所

名張市立赤目保育所

社会福祉法人よさみ福祉会 箕曲保育園

社会福祉法人名張市社会福祉協議会 昭和保育園

社会福祉法人弘仁会 名張西保育園

社会福祉法人こもはら福祉会 西田原保育園

社会福祉法人名張育成会 みはた虹の丘保育園

社会福祉法人弘仁会 比奈知保育園

社会福祉法人弘仁会 滝之原保育園

社会福祉法人こもはら福祉会 桔梗が丘保育園

社会福祉法人仁天会 富貴の森こども園

学校法人廣瀬学園 認定こども園名張よさみ幼稚園

社会福祉法人仁天会 蔵持こども園

学校法人藤森学園 つつじが丘幼稚園

学校法人桔梗が丘学園 桔梗が丘幼稚園

学校法人桔梗が丘学園 梅が丘幼稚園

重点内容に係る実践より見られた学びの芽

<ことば>

重点内容	実践より見られた学びの芽
①「絵本コーナー」で、絵本や図鑑に触れる。	身近な動物を飼育し継続して観察したり、わからないことやその特性を自ら図鑑で調べたりしていた。
②保育者が絵本の読み聞かせを継続することで、言葉に興味・関心を広げられるようにする。	読んでもらった本を何度も友だちと読みながら、言葉の繰り返しや表現を共有することを楽しんでいた。
③なぞなぞ、しりとり、早口言葉や音節を意識した言葉遊びを楽しむ。	言葉を構成している音の数や並び、組み合わせを使ったり置き換えたりして遊びながら、いろいろな言葉や音に興味関心を持つようになった。
④保育者が子どもの言葉に共感し、豊かな言葉にして返すことで表現する土台を育む。	朝の会や帰りの会で経験したことを、どんなことがあって誰がどうしたなど、自分が面白いと思った場面や状況を、相手が分かるように言葉で表現しようとするようになっていった。
⑤地図や迷路遊びに興味をもち、絵や線を描く遊びを楽しむ。	自分と場所の位置関係が分かるようになり、自分の経験に基づいた手がかりを使って、保育園から探検に行ったところの道順を話したり、簡単な地図を描いたりした。
⑥話し合いで決まったことや予定などを保育者が書いておき、ひらがなに触れる機会を増やす。	保育室に掲示した予定（文字）や日付(数字)を見ながら、1日の予定を見通したり、楽しみにしている行事などについて、「今」を基準にして「昨日」と「明日」を理解して話をしたりするようになってきた。
⑦おはしの持ち方から鉛筆の持ち方の基礎を身に付ける。	紙を持ち方はさみで連続切りする活動、折り紙や指でつまんでまわすコマなどの操作活動、自由に線を引いたり形を描いたりする描画などの表現活動を通して、両手の協応をしっかりと経験している。
⑧カルタ・すごろく遊びをして、文字や言葉に興味・関心を広げる。	カルタ遊びなど簡単なルールのあるゲームを通して、カードの文字を見る、読む、探す、取る、確かめるなど、ひらがなや数字に親しむことができた。
⑨歌のなかの言葉に親しんだり、リズム楽器を使ったりする楽しさを味わう。	クラス活動で互いの声や音に耳を傾けながら、合わせて歌ったり奏でたりする楽しさを体験し、音やリズムに合わせて強弱や制止するなど、動きをコントロールできる力がついてきた。
⑩お手紙ごっこをしたり、小さな枠の中に絵や模様を描いたりして遊ぶ。	描画材料や絵や文字を描く遊びができるコーナーを保育室に用意すると、目の前にいない人にも気持ちを伝えようとしてメモや手紙を書き始めた。

<かず>

重点内容	実践より見られた学びの芽
①指さしのリズムと口（言葉）のリズムが合うように、1対1対応させて数える遊びをする。	数を競うゲーム（リレーのチーム分けなど）で、遊びの勝ち負けやゲームの公平さの判断に数・量を取り入れようとしていた。
②大きい小さい、長い短い、多い少ないなどを比べる機会を持つ。	日常の遊びや当番活動の経験を通して、見た目が変わっても加えたり取ったりしていなければ、その量は変わらないことが考えられるようになってきた。
③縄跳びの跳ぶ数など、続けて数える遊びをする。	大縄跳びで、より多く跳ぶことをめざして、跳び続けられた数をみんなで数えることができた。
④形を組み合わせたたり立体に触れたりする遊びをする。	船や電車・建物など、ごっこ遊びで使うものを積み木で作ったり、ルールを考えて立体を組み合わせるゲームをしたり、遊びを発展させていた。
⑤身近なものの大小・長短・重い軽いなどいろいろなものを測る。	生活の中にある道具を選んで、いくつぶんあるかで比べようとしていた。
⑥身近な量の一番を見つける遊びをする。	みんなで育てているひまわりなどを大きい順から小さい順、小さい順から大きい順に並べたりしている。（絵本を大きい順に並べる、身長順に並ぶなど）
⑦玉入れなど、量の大小と数の大小を同時に比べる遊びをする。	運動会の玉入れで、競い合いを楽しみながら、籠に入った玉の数を数えることができた。
⑧少ない数で「合わせていくつになるか」クイズをする。	順序数の理解にとどまらず、数を量として認識することができるように、生活の様々な場面で「合わせていくつ」「この中から〇個ちょうだい」を経験した。
⑨5や10のまとまりのゲームをする。	人数集めゲームなどをして、数のまとまりを意識しながら遊ぶことができた。
⑩買い物ごっこなど、お金を使う経験を取り入れる。	「お店屋さんごっこ」で、店の品物に値段をつけたり、模擬硬貨で品物を売り買いしたりして遊ぶことができた。

<からだ>

重点内容	実践より見られた学びの芽
①体の成長を知ること、自分の体に関心を持ち、大切にしようとする。	身体計測のとき、自分の身長や体重を聞いたり、歯が抜ける、靴がきつくなることなどを通して体の成長を知り、清潔を心がけたりマナーを守って食事をしたりして心地よく過ごせるようになってきた。
②すすんで戸外で体を動かして遊び、鉄棒等を使った遊びを楽しむ。	園の固定遊具（鉄棒・登り棒・うんてい等）を使い、指先に力を込めて支えたり受け止めたりし、逆上がりや回転などの運動を楽しんでいた。
③「跳び箱」等、手足の力を総合的に使った運動遊びを楽しむ。	力を入れるコツが身につくについて合理的な姿勢制御ができるようになってくることで、跳び箱の開脚跳び、タイヤの連続跳びなどを楽しむことができるようになった。
④「マット遊び」等、体を柔軟に使う運動遊びを楽しむ。	立位でも手が足先までつくなど柔軟性が増してくるため、手足をつかってバランスをとり、末端部まで力を込めて転がったり、前回りしたりしていた。
⑤水にかかる・浮く等、水に慣れる遊びをする。	プールで「スーパーボールひろい」や「リングくぐり」などをして、楽しみながら水に慣れ親しむことができた。
⑥音やリズムに合わせて体の動きをコントロールしたり表現したりする面白さを味わう。	絵本等から内容に沿った動きをイメージしそれを共有し、走る、四つ這い、リズムに合わせて歩調のリズムを変えるなど、様々な動きを楽しんで表現した。
⑦全力でトラックを走ったり、くねくね走や障害物をこえたり、体をコントロールして走ることを楽しむ。	運動会の徒競走やサーキット遊びで、友だちと競い合いながら体の動きを調節したり、力いっぱい走ったりすることを楽しむことができた。
⑧「いす取りゲーム」「こおり鬼」など、歩く・走る・止まるなど体を操作する遊びをする。	「いす取りゲーム」「フルーツバスケット」等を楽しみながら、走ったり、止まったりと素早く体を操作することができた。
⑨ドッジボール、サッカー遊びなど、基本的な動きを多様な動きに発展させるボール遊びを楽しむ。	ルールのあるゲームの中で素早く動いたり、止まったりするなどの制御ができ、ボールを投げる、受け取るなど、重心を移動させながら相手に合わせて柔軟に動きを調整していた。
⑩ゴム跳び、縄跳びなど、全身を使った跳躍運動を楽しむ。	大縄跳びで友だちと力を合わせてより多く跳ぼうと意欲的に運動したり、前跳び・片足跳びなど身体全体を協応させた複雑な運動をしたりしていた。

<しぜん>

重点内容	実践より見られた学びの芽
①身近な草花や生き物に親しみ、自然の不思議さに気付く遊びをする。	カマキリやダンゴムシ等の生き物を飼育し、観察したり調べたりしながら、自然の神秘や生命の大切さを感じ取ることができた。
②土・砂の性質に気付き面白さが分かる遊びをする。	「土だんごづくり」や「泥んこ遊び」で、水分により土の状態が変化することなどに気付きながら遊ぶことができた。
③野菜や花の特徴や生長に興味をもって世話をする。	大きくなる様子を楽しみにしながら、ひまわりや野菜の世話をすることができた。
④吹き流し、紙飛行機、シャボン玉など、風に興味をもち性質に気付く遊びをする。	シャボン玉遊びでは、シャボン玉を作る場所や飛ばす方向を考えるなど、風を意識しながら、遊びを楽しむことができた。
⑤水・泡などの性質に気付き面白さがわかる遊びをする。	泡遊びでは、繰り返し遊びながら、水の量による泡の質の違いに気付いていくことができた。
⑥木の葉や実を集め、自然の変化の不思議さや美しさに気付く遊びをする。	落ち葉や木の実を用いて遊ぶ中で、身近な自然に興味をもち、葉っぱや色の違いに気付き、季節の変化など感じたことを自分の言葉で表現していた。
⑦転がし遊びやゴムのおもちゃ作りなど、物事の法則性に気付き面白さがわかる遊びをする。	「恐竜のたまご」のおもちゃづくりでは、ビー玉の動きにより不規則に動くおもちゃの面白さを感じることができた。
⑧身近な小動物や生き物の命の大切さに気付きながら世話をする。	カマキリやダンゴムシ等、つかまえた生き物について、飼い方を図鑑で調べたり、みんなで話し合っただけで飼育する中で、命の大切さを感じ取ることができた。
⑨雪遊びや生活の変化など、雪や氷、冬の自然のおもしろさや不思議さに気付く遊びをする。	雪の日や霜が降りた日などに戸外で冬の様子を感じたり、いろんな容器に入れた水を凍らせて変化を楽しんだりした。
⑩ステンドグラスや影踏み遊びなど、光と影に興味を持ち性質に気付く遊びをする。	保育室の窓ガラスにカラーフィルムを張ったステンドグラス遊びから、色の重なりや曇りの時は映らないなど、気づいたことをニュースの時間に友だちに知らせていた。

<やくぞく>

重点内容	実践より見られた学びの芽
①登園してから降園するまでの一日の生活の約束をまもって生活する。	登園時や食事をするときなどの決まりを守り、毎日同じ生活リズムで過ごし、活動の区切りをもちながら1日を過ごすことができた。
②伝承遊びや運動遊びなど、様々なルールのある遊びをする。	友だちとの遊びの中で様々な決まりがあることに気づき、決まりの必要性やその意味を理解し、守ろうとしていた。
③みんなで使うものや公共のものを使い方を考える。	自分のものとクラスの共有物の区別をつけ、何をどこに片づけるのか理解して、整頓していた。
④ボール遊びや渦巻きじゃんけんなど、ルールを作る遊びをする。	数人が集まって遊ぶことが増えると、遊びをより楽しむために自分たちでルールを作るようになってきた。
⑤当番活動や片づけなどの決まりを作ることで、皆が気持ちよく生活できることに気付く。	当番活動で皆のためになる活動をして、「ありがとう」と言われること等を体験して、役割の大切さに気付くことができた。
⑥友だちと意見が違った時など、言葉を変えて解決する経験をする。	遊びの中で、トラブルになったとき等に、必要に応じて教師が仲介しながら、お互いの気持ちを伝え合って、解決することができた。
⑦大勢の友だちがかかわる遊びを通して、ルールなど工夫したりチームに分かれたりして遊びを発展させる。	リレーのチーム分けをしていくために、友だちの思いも聞きながらチーム決めをしたり、2人で手をつなぐ方法を取り入れ、人数合わせをしたりして工夫していた。
⑧集団生活の流れや時刻を意識し、皆と一緒に行動しようとする。	一日の予定をボードに書いて掲示しておくことで、子どもたちがそれを見ながら見通しをもって生活することができた。
⑨大縄跳びなど、みんなで力を合わせる遊びをする。	大縄跳びでは、より多く跳ぼうと取り組む中で、「○○ちゃん頑張れ」等と励まし合って、力を合わせることもできた。
⑩交通ルールを守って歩くなど、危険から身を守る知識を持つ。	交通安全教室で、交通ルールや危険から身を守る方法についての話を聞き、自身の安全について意識することができた。

<つながり>

重点内容	実践より見られた学びの芽
①異年齢交流や他園との交流、地域の人に触れ合う機会を持つ。	七夕会、お正月遊び等、季節の行事に地域の方々を招き、遊びを教わることができた。
②ALTとはじめましての出会いをする。	ALTとの出会いの場面で、お互いに英語であいさつを交わすことを体験できた。
③七夕お楽しみ会や運動会にむけて、地域の人や卒園生にあてた絵や文字の招待状をつくる。	行事を楽しみにする中で、身近な人や地域の人とのかわりを深め親しみを持つことができた。
④学校探検などで地域の小学生と交流を持つ。	地域の小学校へ行き、1年生と一緒にゲームをしたり、学校探検をしたりして、小学生と交流を持つことができた。
⑤ALTの国の歌や手遊びを楽しむ。	ALTと一緒に英語の歌や手遊びを体験し、楽しむことができた。
⑥地域の方々や小学生に遊びを教わりながら遊んだり、運動会などに一緒に参加したりする。	入学予定校の運動会に参加したり、高学年の児童と一緒に遊んだりすることで、小学校での活動を体験し、入学に向けての期待感を高めることができた。
⑦仕事に関心を持ち、お店屋さんごっこなど役割遊びの中に取り入れ発展させる。	地域のお店たんけんにより興味・関心の対象を広げ、「お店屋さんごっこ」で楽しみながら自分の役割の仕事を工夫して行うことができた。
⑧ALTの国の絵本などを楽しむ。	ALTによる英語での紙芝居を楽しむことができた。
⑨小学校へのあこがれを育てる遊びや活動をする。	元小学校の先生の指導により様々な遊びや活動を行うことで、小学校生活へのあこがれを感じることもできた。
⑩ALTの国の冬の行事や遊びの歌を楽しむ。	クリスマスの歌（英語）をALTと一緒に歌って楽しむことができた。

引用・参考文献

- ◇「小1プロブレム」に挑戦する（新保真紀子著 明治図書 2001年）
- ◇接続期をつくる 幼・小・中をつなぐ教師と子どもの協働（お茶の水女子大学附属幼稚園 東洋館）
- ◇幼稚園教育要領解説（文部科学省 平成20年10月）
- ◇保育所・幼稚園の保育と小学校教育の連携（田口 鉄久）
- ◇小1プロブレム研究推進プロジェクト報告書（東京学芸大学 平成22年3月）
- ◇幼稚園教育要領・保育所保育指针对照表（子ども指針ワーキングチーム 平成22年9月29日）
- ◇幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）（幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査研究協力者会議 平成22年11月11日）
- ◇ひめじ保幼小連携教育カリキュラム活用リーフレット（姫路市教育委員会）
- ◇つながる子供の育ち（山口県教育委員会）
- ◇アプローチカリキュラム編成の手引（愛知県教育委員会）
- ◇幼児教育と小学校教育の連携ガイドブック～スタートカリキュラム事例集～（大分県教育委員会）
- ◇学びをつなぐ 希望のバトン カリキュラム（福井県幼児教育支援センター）
- ◇スタートカリキュラムスタートブック 必携！（文部科学省 国立教育政策研究所 平成27年1月）
- ◇教育課程部会幼児教育部会資料（文部科学省 平成28年3月30日）
- ◇幼児教育の現状と課題について（成田 英範 平成28年6月）
- ◇次期学習指導要領に向けたこれまでの審議のまとめ（中央教育審議会教育課程部会 2016年8月26日）
- ◇幼稚園教育要領の改訂ポイントメモ（無藤 隆 2016年9月18日）
- ◇「幼小接続」から「幼小一体」へ（神戸大学附属幼稚園・付属小学校 平成28年11月）
- ◇小学校までにつけておきたい力と学童期への見通し（丸山 美和子 かもがわ出版）
- ◇保育とおもちゃ（瀧 薫 エイデル研究所）
- ◇小学校国語年間計画作成資料（光村図書）

- ◇新編 新しい算数年間計画作成資料（東京書籍）
- ◇小学校体育年間指導計画作成資料（学研）
- ◇わかる！スタートカリキュラム 生活科教科書教授資料（日本文教出版）

関係機関一覧

- ◇名張市教育委員会学校教育室 : 名張市鴻之台 1 番町 1 番地 TEL (0595) 63-7882
- ◇名張市福祉子ども部保育幼稚園室: 同上 TEL (0595) 63-7919
- ◇名張市教育センター : 名張市百合が丘西 5 番町 25 番地 TEL (0595) 64-8801
- ◇名張市子ども発達支援センター : 同上 TEL (0595) 62-1088
- ◇名張市こども支援センターかがやき : 名張市桔梗が丘西 3 番町 3 街区 107 番地
TEL (0595) 67-0250